

# 【保守作業者向け】 ナンバーキャッチシステム 保守マニュアル

2025. 9.30 1.0版

パナソニック コネクト株式会社 現場ソリューションカンパニー  
映像メディアサービス本部  
プロダクト推進部

本資料は、i-PRO AIカメラを使用したナンバー認識システム“**NumberCATCH II**”の、  
現地での保守作業（機器交換）の手順や参考情報を記載したものです。

## ■ 作業にあたり入手する資料やデータ

導入時の現地作業担当より以下の資料やデータを入手し、参照、利用してください。

- ① ナンバーキャッチシステム完成図書
- ② 交換する機器やアプリケーションの設定データ（バックアップファイル）

## ■ 障害調査依頼資料

障害が復旧しない場合、以下の資料を作成しi-PRO社へ提出してください。

- ① **WV-ASE334W障害調査シート**                      ・ ・ ・ ASM300ナンバーアプリの障害時（別途テンプレート資料あり）

# カメラ交換

ナンバーキャッチカメラ交換時の設定復元・調整・動作確認

## 1-1 新カメラへの設定復元

### 新カメラのIPアドレス設定後、i-PRO設定ツールでカメラ本体とナンバーアプリの設定を復元します

#### ■ リストア（設定復元）

- ① i-PRO設定ツールで機器を読み込む
- ② 復旧する機器をチェックして選択
- ③ 「ファイルのアップロード」をクリック

- ④ カテゴリーを選択

※リストアは機器種別・アプリごとに実行します。  
ナンバーキャッチは「ナンバー認識」を選択。

- ⑤ 設定ファイルを選択

例)

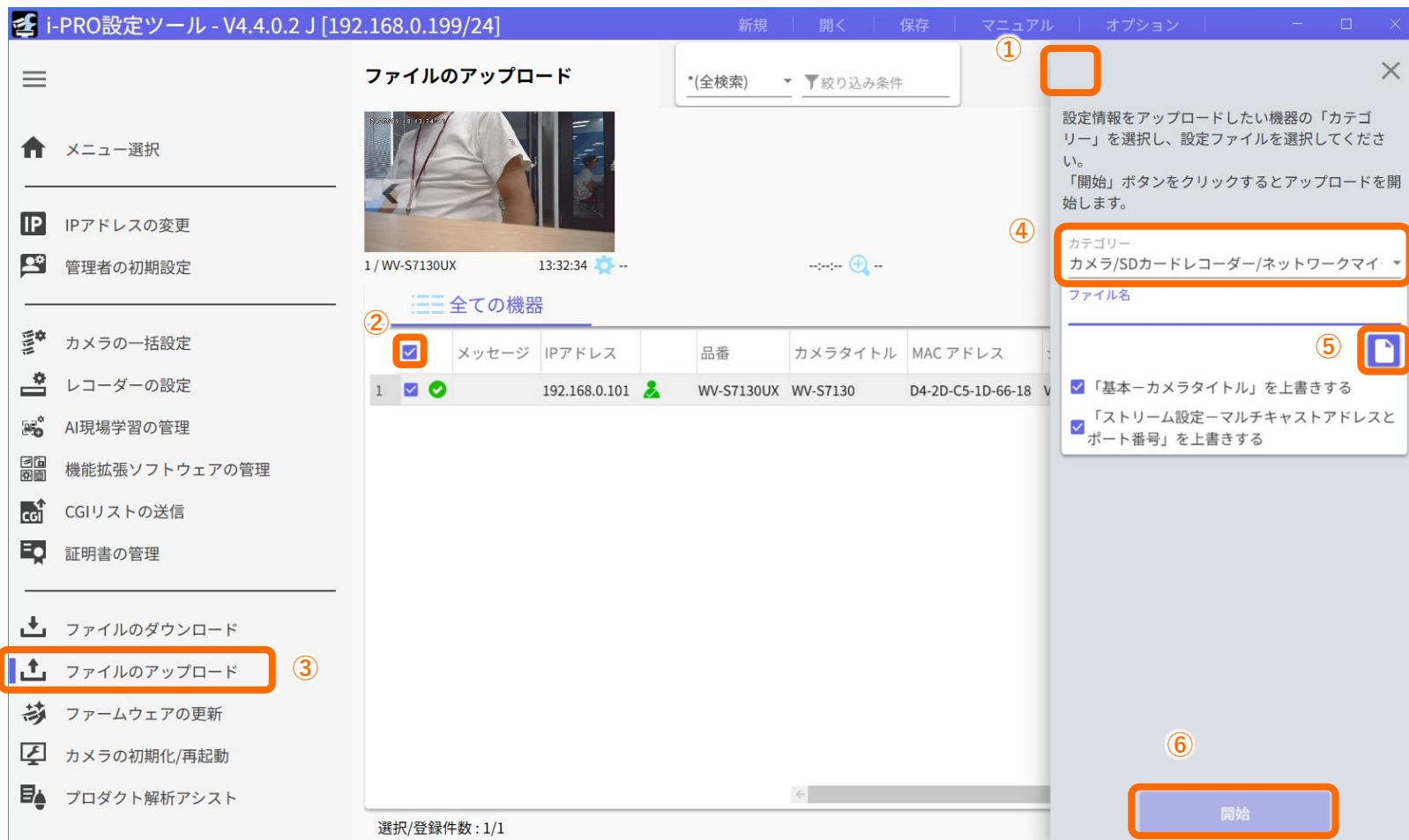
SD  
ViewingData  
adamAppPref\_XAE200\_0110\_v3.80\_WV-S7130UX\_192.168.10.10\_v2.85.dat  
WV-S7130UX\_192.168.10.10\_v2.85.dat

ナンバーキャッチ

カメラ本体

- ⑥ 「開始」をクリック

カメラの本体設定とナンバーキャッチアプリ設定をそれぞれ別々に復元させます。





# カメラのズーム倍率を設定します。

ブラウザでカメラにアクセスし、  
②「設定」⇒③「ズーム」  
⇒④「ズーム/フォーカス調整」を押す。

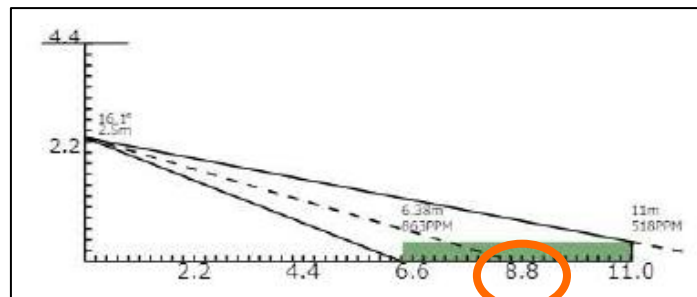
ズームフォーカス調整画面が表示されたら、  
⑤倍率指定のスライダーを元のカメラの倍率に  
⇒⑥「実行」⇒⑦「設定」を押す。

①完成図書またはSDTで元のカメラの  
ズーム倍率設定を確認



# カメラの画角・ピントを調整します。

- ①テスト車両またはナンバープレート  
SDTで決めた**認識エリアの中心**に  
ナンバープレートが来るように配置する。



上記の場合、カメラから8.8mの所に  
ナンバープレートが来るようにテスト車両を停める。

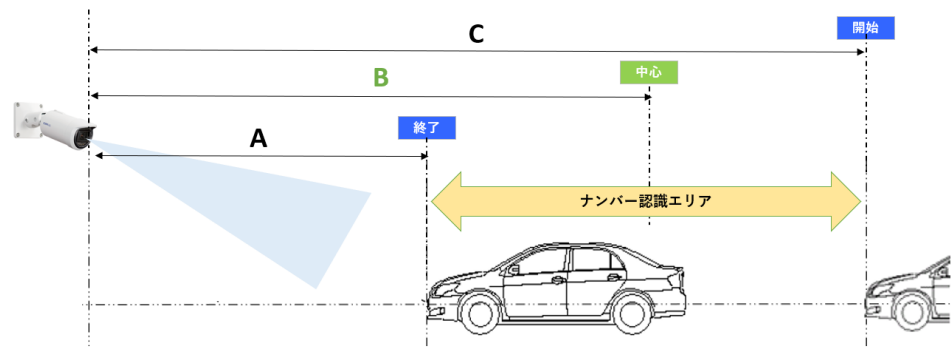
- ②ナンバープレートが**画面の中心**になるよう  
カメラの上下左右の向きを調整する。  
**完成図書のカメラ設置情報の検知エリア画面も  
参照して調整する。**



- ③ナンバープレート位置でフォーカスを調整し、  
④**固定ピントシフト（ノーマル）**を選択の上、  
⑤「**設定**」を押す。



設置位置が急遽変わった等、事前に条件設定できなかった場合にご活用ください。



【注意事項】

- ・システムデザインツールで確認した数値です。目安としてください。
- ・i-PRO設定ツールを使用して実際の精度確認を必ず行ってください。
- ・カメラ高さ3mの場合の数値です。高さによって多少前後します。

■ WV-S1536LNS（2MP、光学ズーム3.1倍）

ナンバー認識エリアのカメラからの距離 [m]			最適 ズーム倍率
A 終了	B 中心	C 開始	
3.8	5.2	6.6	4.2（俯角限度）
4.5	6.0	7.5	4.8
5.2	7.0	8.7	5.3
6.0	8.0	10.0	5.8
6.7	9.0	11.2	6.1
7.1	9.6	11.9	6.2（倍率上限）

■ WV-X15301-Z1LN / S15301-Z1LN（2MP、光学ズーム10倍）

ナンバー認識エリアのカメラからの距離 [m]			最適 ズーム倍率
A 終了	B 中心	C 開始	
3.8	5.2	6.6	2.1（俯角限度）
4.7	6.4	8.0	2.4
6.0	8.0	10.0	2.9
7.3	9.6	12.0	3.5
8.5	11.2	14.0	3.9
9.7	12.8	16.0	4.4
11.1	14.4	18.0	5.1
12.3	16.0	20.0	5.6
13.6	17.6	22.0	6.1
14.9	19.2	24.0	6.7
16.2	20.8	26.0	7.3
17.5	22.4	28.0	7.9
18.7	24.0	30.0	8.4
20.1	25.6	32.0	9.0
21.3	27.2	34.0	9.6
22.5	28.8	36.0	10.0
23.7	30.4	38.0	10.5
24.9	32.5	40.0	11.1

## 検出エリアの設定を行います。 完成図書のカメラ設置情報の検知エリア画面を参照して設定

カメラのナンバー認識アプリケーションの設定画面を開きます。

### ▶①サイズチェッカー表示

ナンバー検知サイズの大まかな確認

### ▶②基本設定（基本タブ）を開く

ナンバー認識する検知エリアの設定実施。

ナンバーキャッチ機能設定

① サイズチェッカー表示 ☐ Off

② 基本 通知 詳細

エリア1			エリア2		
日時	認識結果	ナンバー画像	日時	認識結果	ナンバー画像
2022/07/20 16:50:01	福岡 わ 506		1900/01/00 00:00:00	未検出	

### ▶③検知エリアの設定

#### ■エリア1、エリア2：

エリアごとに最新の認識結果とサムネイル画像を表示します。

最新の5件を上から表示します。更新間隔は1秒です。

※車の走行状況と表示タイミングにより、認識結果が表示されない場合有

#### ■状態：

検知エリアの設定状態が、「有効」「無効」で表示されます。

#### ■表示内容：

日時、認識結果（陸事、車種、用途、一連番号）ナンバー画像

#### ■検出エリア：

ライブ画面上で、検知させたい場所を2か所設定できます。

### 【検知エリアの多角形設定】

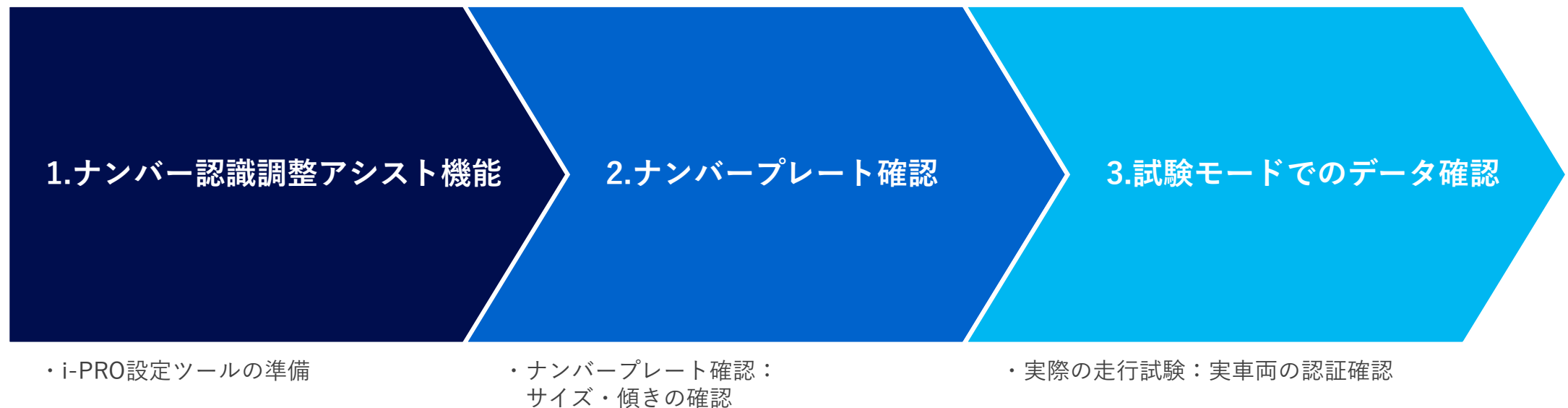
- ・長方形 / 多角形を選択可能

検出エリアの形状 ☒ 長方形 ☐ 多角形  
※検出エリアの形状を切り換えた場合は、設定したエリアが削除されます。



右の画像は、多角形にして出場側の車両ナンバーを検知しないように設定した例。

現場環境で、i-PRO設定ツールを用いて精度確認を行います。



# i-PRO設定ツールのナンバー認識調整アシスト機能を起動します。

■i-PRO設定ツールを起動します。

- ① 調整を実施するカメラにチェックの上、
- ② 「アプリケーションの設定」を選択
- ③ 「ナンバー認識調整アシスト機能」を選択
- ④ 「設定／確認画面へ」を押し、調整開始です。





### 認識が可能なナンバープレートのサイズ・傾きかどうかを事前確認します。

■車をカメラのナンバー検出エリアの最上部まで移動し、

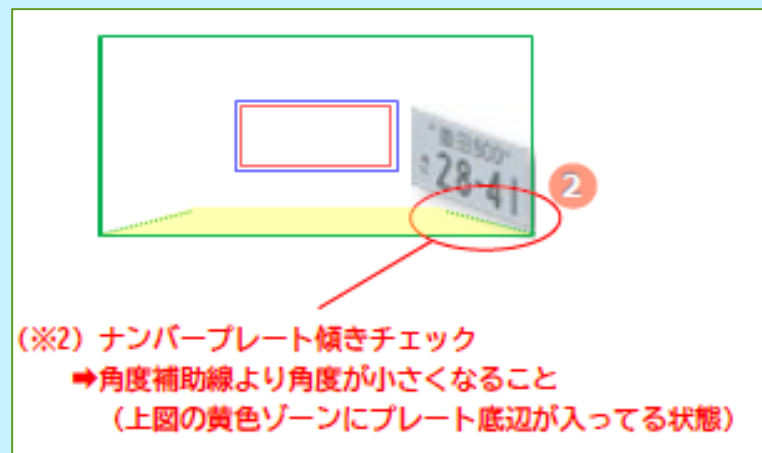
① 調整プレートを使い、ナンバープレートのサイズ・傾きを確認します。

※サイズや傾きがNGの場合は再度カメラ調整を行う。

確認完了後、②「次へ」を押し、試験開始です。

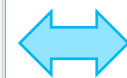
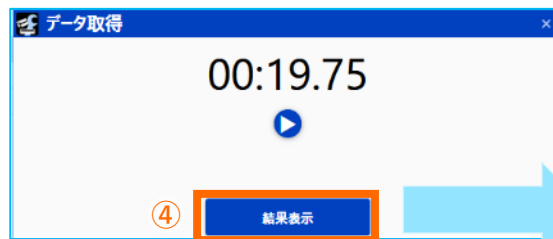
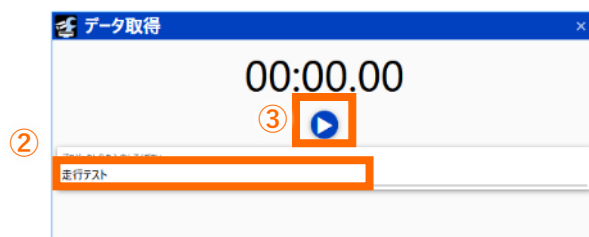
#### 【調整プレートでの確認項目】

- ・サイズ：青枠(160pixel)以上であること
- ・傾き：緑破線で範囲内であること



**車両走行試験を行い、認識精度を確認します。**

- ⇒ 結果が悪い場合※2 は、画面に表示された ⑥「ガイドンス」や ⑦「トラブルシューティング」を参考にし、カメラ調整を実施してください。



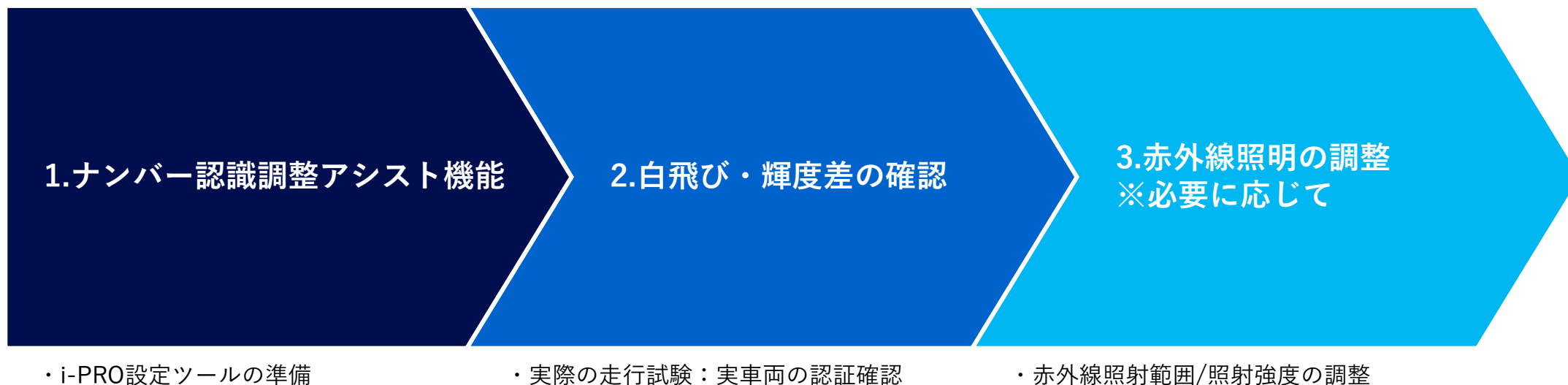
※1：推獎9枚以上、最低4枚以上

※2：輝度差（推奨：80以上、最低60以上）





夜間でもナンバー認識できるようにカメラ調整を行います。  
本STEPは、夜間の日が暮れた状態で作業を行ってください。



**P.10～11と同様の作業を行います。  
ツールの起動 / プレーットのサイズ・傾き確認を実施**

試験モードで、ナンバープレートの輝度差の確認を行います。  
作業手順はP.12同様であり、本ページでは確認項目を説明します。







- ① データ取得を行います。（P.12参照）
- ② 「画面切替ボタン」で、右図の画面を表示します。（P.12参照）
- ③ 「ナンバープレート画像」が白飛びしていないかを確認します。
  - ・白飛びしている場合：次ページの対応実施
  - ・白飛びしていない場合：問題なし
- ④ 「輝度差」を確認します。
  - ・数値が60未満（オレンジ/赤文字）：次ページの対応実施
  - ・数値が60以上（黒文字）：問題なし

ナンバー認識調整アシスト

以下はカメラから取得したナンバープレート情報と調整アドバイス情報です。  
検出エリア、車両IDを選択して、カメラの設定・設定を調整してください。

③

④

ナンバープレート画像	検出エリア	車種	種別	一連番号	車両識別ID	時間	エリア	縦横 (px)	傾き(°)	輝度差	エリア内位置	左中央座標	右中央座標	輝度値(低輝度)
	福岡	506	わ	2108	6	16:39:59.33	1	156	0	153	ゾーンA	650,198	806,400	50
	福岡	506	わ	2108	6	16:39:59.53	1	160	1	155	ゾーンA	598,414	758,418	50
	福岡	506	の	2108	6	16:39:59.73	1	158	0	155	ゾーンA	560,428	718,430	48
	福岡	506	わ	2108	6	16:39:59.92	1	160	0	160	ゾーンA	534,436	694,438	44
	福岡	506	わ	2108	6	16:40:00.12	1	162	1	155	ゾーンA	524,438	686,442	47
	福岡	506	わ	2108	6	16:40:00.32	1	162	1	155	ゾーンA	526,438	688,442	48

## 赤外線照明の照射強度と照射範囲を調整します。

- ▶①ナンバー認識アプリの基本設定（基本タブ）を開く
- ②画質調整画面「開く」を選択
- ③シーンファイル「夜間モード」を選択し、シーンファイルタイトル「読み込み」を押す。

#### ■赤外線照明の調整：④「白黒切替」を選択

P.12より、白飛びが発生している場合：⑤IR Light 照射強度を調整。

映像を確認しながら、「high ⇒ middle / low」に変更します。

P.12より、輝度差が60未満の場合

：⑥IR Light 照射範囲制御「マニュアル」を選択し、調整。

映像を確認しながら「4 ⇒ 3 / 2 / 1」に変更します。

① 基本 通知 詳細

検出エリアの形状 ☒ 長方形 ☐ 多角形  
※検出エリアの形状を切り換えた場合は、設定したエリアが削除されます。

入出場の判定方法 ☒ 方向 ☐ サイズ

検出エリア 状態 入場/出場判定

エリア1 (白) ☒ 有効 ☐ 無効 自動 (上→下: 入場/下→上: 出場) 削除

設定エリアの面積 (%): 100

エリア2 (青) ☐ 有効 ☒ 無効 自動 (上→下: 入場/下→上: 出場) 削除

設定エリアの面積 (%): 0

設定

推奨画質設定 ☐ 外部照明を使用  
--選択してください--

実行

画質調整画面 ① ② 開く

ナンバー照合設定 ① 開く

設定データ初期化 実行

※変更した内容は即座に反映されます 2:夜間モード

+画質基本調整

+スーパーダイナミック ☒ On ☐ Off

④ +光量制御モード 屋外撮影

-白黒切替 On (IR Light On)

レベル

1 白黒への切替照度  
0:1lux, 1:2lux, 2:4lux, 3:8lux(参考)  
カラーへの切替照度  
上記照度の約5~8倍の明るさ  
※環境や条件によって変わります。

リセット

切替時間 10s

⑤ IR Light 照射強度 High

IR Light 照射範囲制御 ☒ 自動 ☐ マニュアル

⑥ IR Light 照射範囲(マニュアル) 4  
IR lightの照射範囲のマニュアル設定  
1:狭い-4:広い

リセット

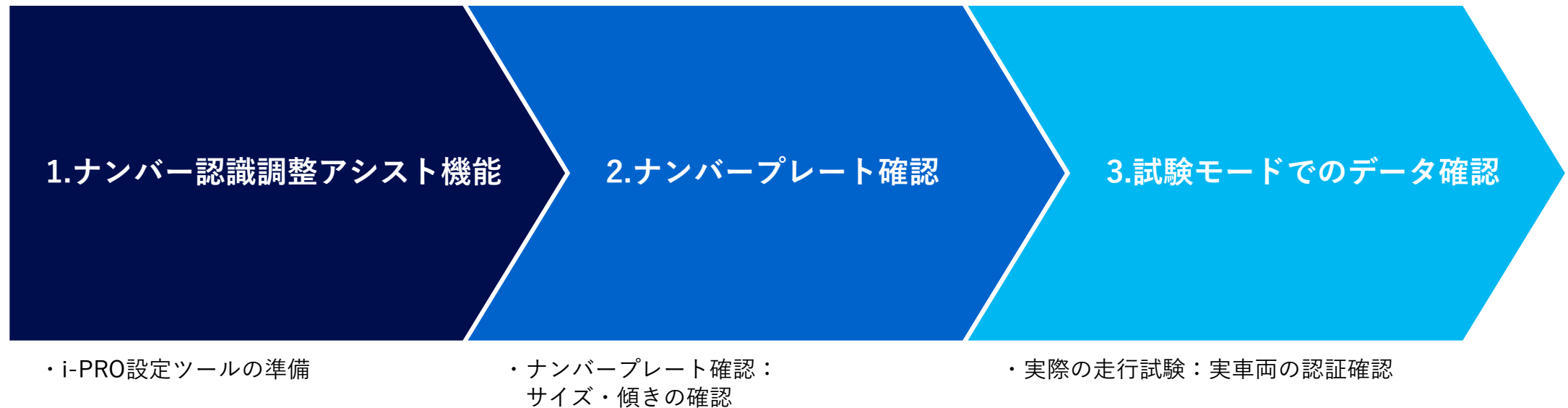
IR Light 白とび抑制 ☐ On ☒ Off

-シーン登録

シーンファイル 2:夜間モード

③ シーンファイルタイトル 夜間モード  
読み込み 登録

P.9～12の、「i-PRO設定ツールでの実写走行確認」作業を  
夜間の日がくれた状態で行ってください。



# PC交換 1（本体）

PC本体交換時のキッティング作業

# PC本体のキッティング項目一覧

■作業項目一覧      ・ ・ ・ **青太文字**が本マニュアルでの記載項目です

No.	分類	項目	備考
1-1	PC本体 & Windows	グラフィックボード追加	
<b>1-2</b>		<b>増設SSD追加</b>	
1-3		IPアドレス設定	
1-4		Windows管理者登録	
<b>1-5</b>		<b>Windowsオートログイン設定</b>	
<b>1-6</b>		<b>定期リブート設定</b>	「タスクスケジューラー」 で設定
<b>1-7</b>		<b>ASM300自動起動</b>	
<b>1-8</b>		<b>NTP時刻同期</b>	レコーダーに同期
<b>1-9</b>		<b>WindowsUpdate無効化</b>	「サービス」で設定
<b>1-10</b>		<b>電源オプション設定</b>	
1-11	ASM300	ASM300・ASE334 解除キー取得	
<b>1-12</b>		<b>インストール&amp;ライセンス登録</b>	ファイアウォール例外設定含む
<b>1-13</b>	ASE334 ナンバー アプリ	<b>インストール&amp;ライセンス登録</b>	Contig設定 ファイアウォール例外設定含む



## 1-2 増設SSD追加 (1/3)

ナンバーキャッチデータのバックアップ保存先として、PCにSSDを増設ドライブとして装着、追加します。

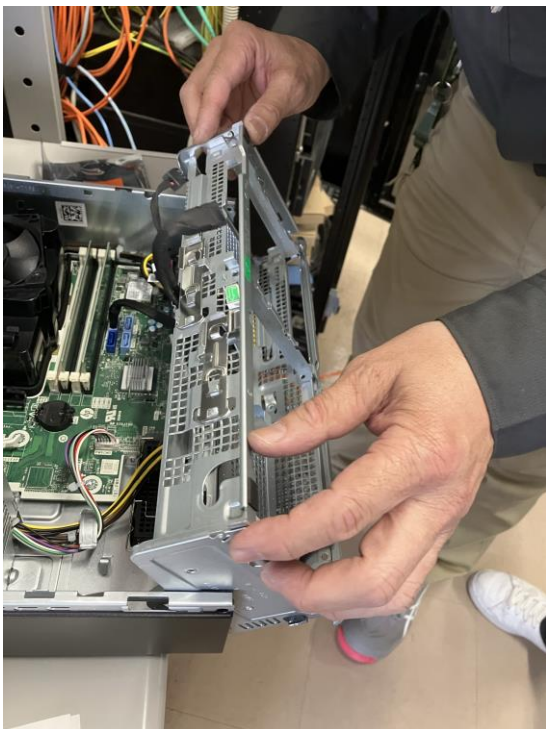
装着手順は右記P CとSSDの場合です。

【PC】 HP製 Elite SFF 800 G9 Desktop PC

【SSD】 HP製 406L8AA (SSD 512GB PCIe NVME TLC)

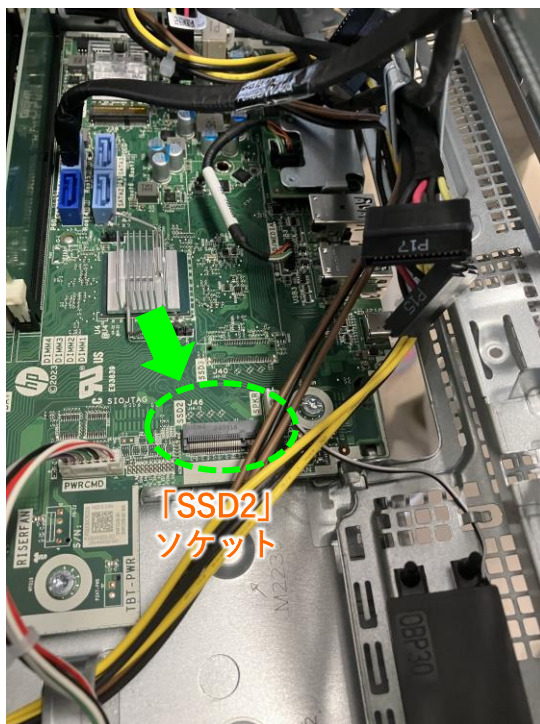
### 手順 1

PC本体の前面パネルを外す



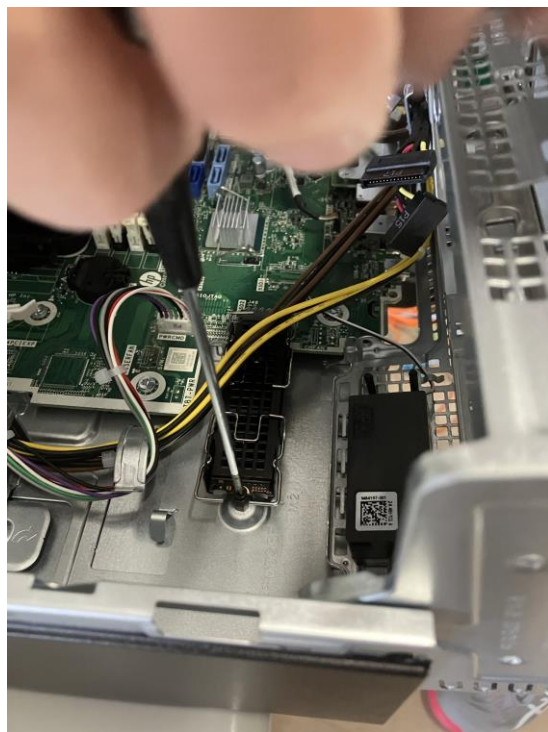
### 手順 2

基板上の「SSD2」のソケットにSSDを装着する



### 手順 3

SSDを付属のプラスネジで固定し、  
前面パネルを元に戻す

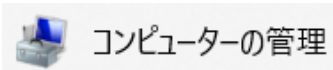




## 1-2 増設SSD追加 (2/3)

装着したSSDのフォーマット、ドライブ割当てを行います。

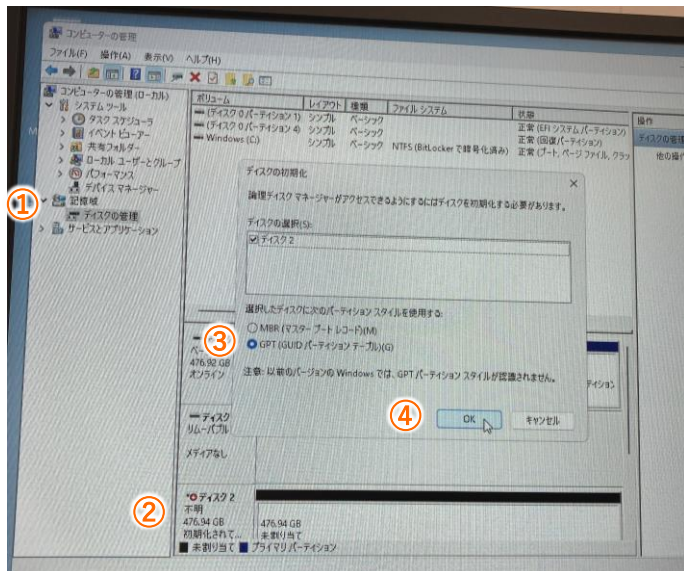
### 手順 4



コンピューターの管理

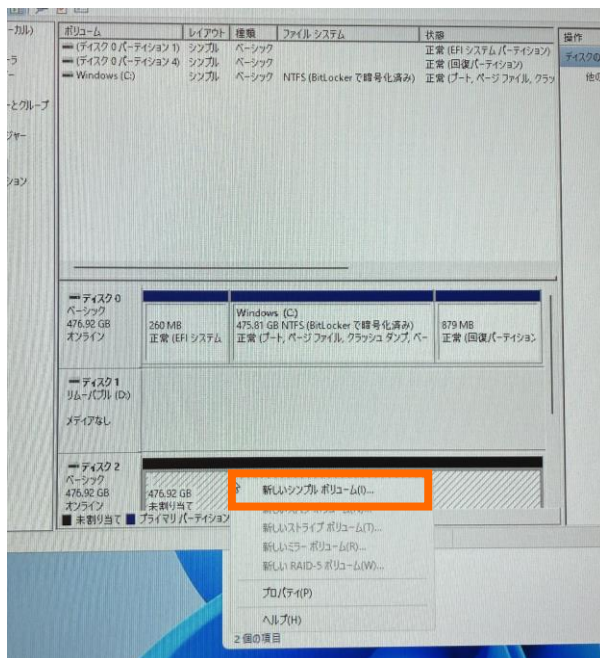
Windowsの「コンピューターの管理」を起動し

- ①「記憶域>ディスクの管理」を選択
- ②ディスク2を選択
- ③パーティションスタイル「GPT」を選択
- ④「OK」を押し初期化実行



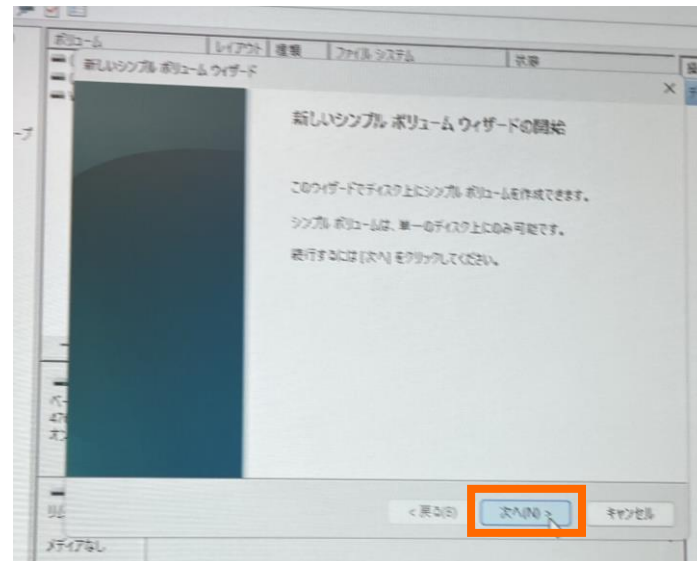
### 手順 5

ディスク2を選択し右クリックし  
「新しいシンプルボリューム」を選択



### 手順 6

ウィザード画面が表示されたら  
「次へ」を押して画面を進める



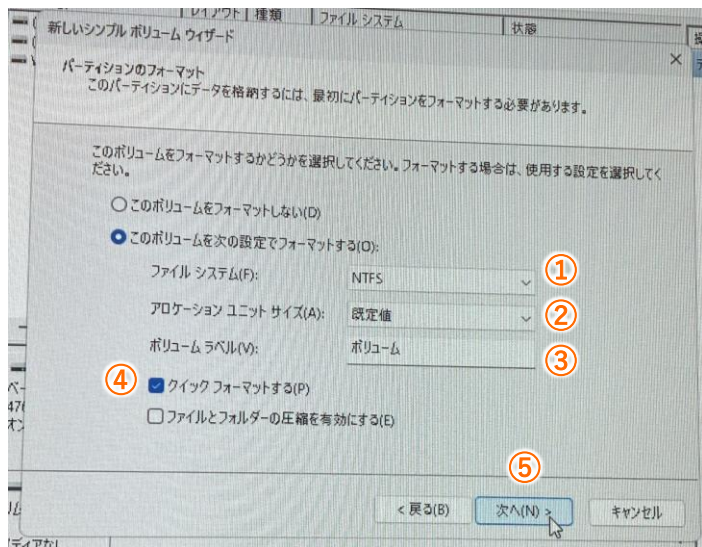
## 1-2 増設SSD追加 (3/3)

装着したSSDのフォーマット、ドライブ割当てを行います。

### 手順 7

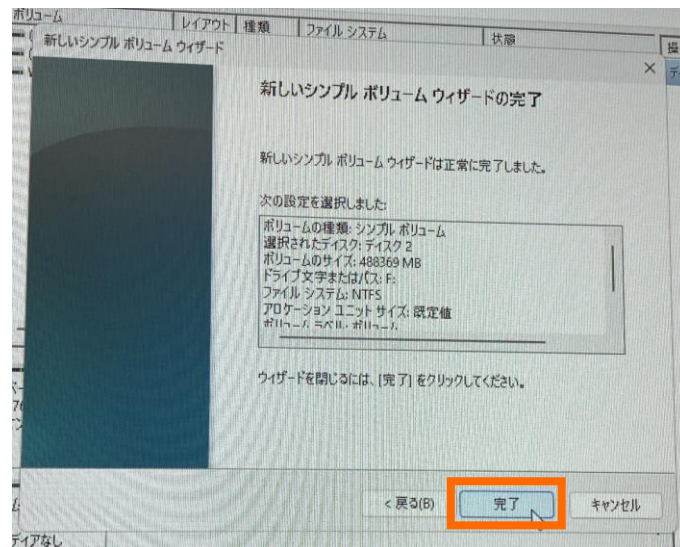
パーティションのフォーマット画面で以下を選択

- ①ファイルシステム：NTFS
- ②アロケーションユニットサイズ：既定値
- ③ボリュームラベル：ボリューム
- ④クイックフォーマットにチェック
- ⑤「次へ」を押す



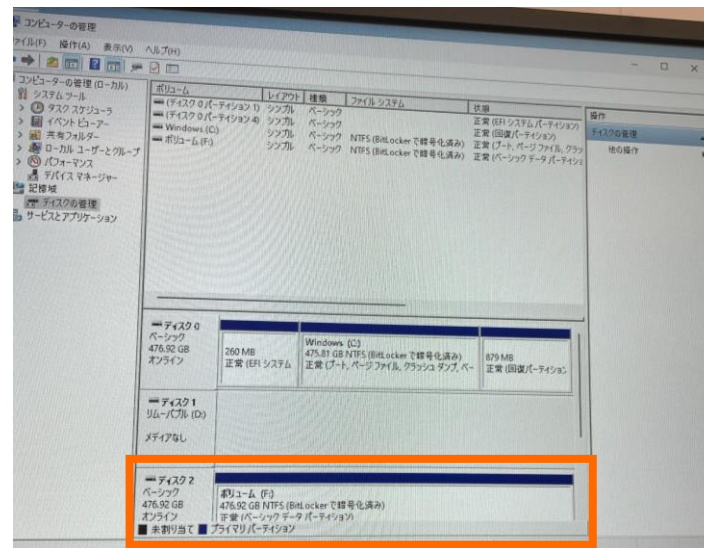
### 手順 8

ウィザードが終了したら「完了」を押す




### 手順 9

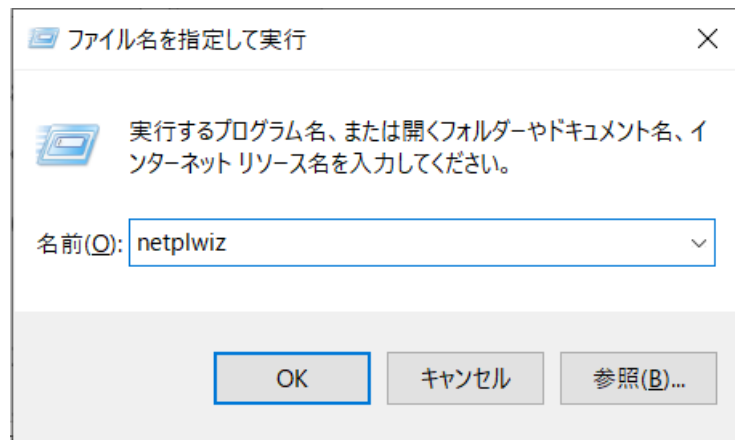
ディスク 2 が (F:) ドライブとして  
正常に割当てられていることを確認し終了



## 1-5 Windows オートログイン設定 (1/3)

### 手順 1

 + 「R」 で「ファイル名を指定して実行」を開く。

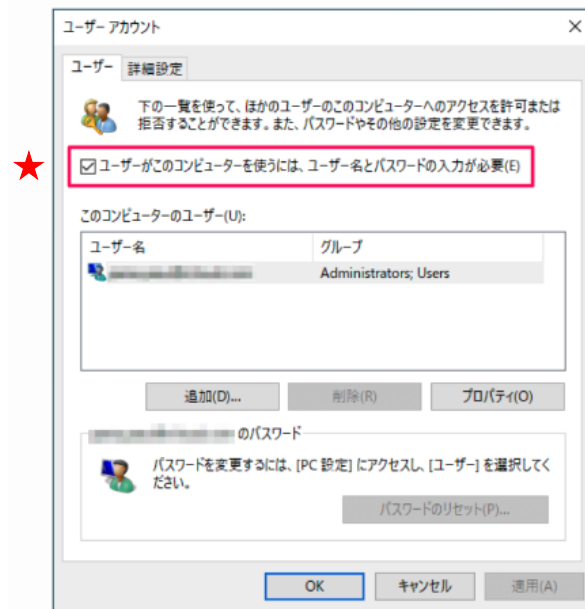


“netplwiz” と入力し、

「Enterキー」もしくはOKボタンを押下。

### 手順 2

ユーザーアカウントの設定画面となる。

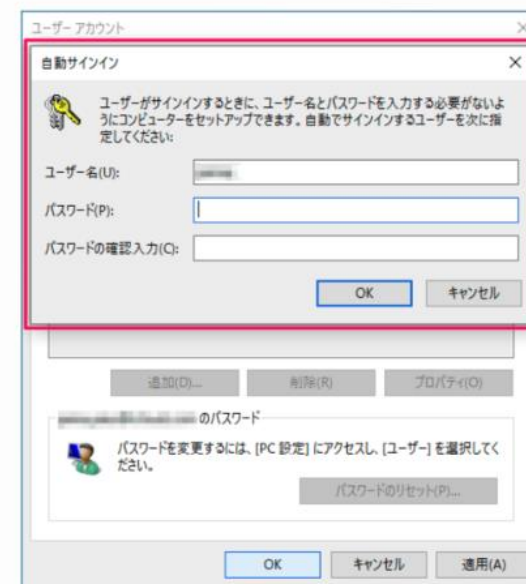


上記★の“ユーザーがこのコンピューターを・・・”  
のチェックを外し、OKボタンを押下。

★チェックボックスが表示されない場合は、  
次頁からの手順 1～6 を先に実施してください。

### 手順 3

自動ログインの設定画面となる。




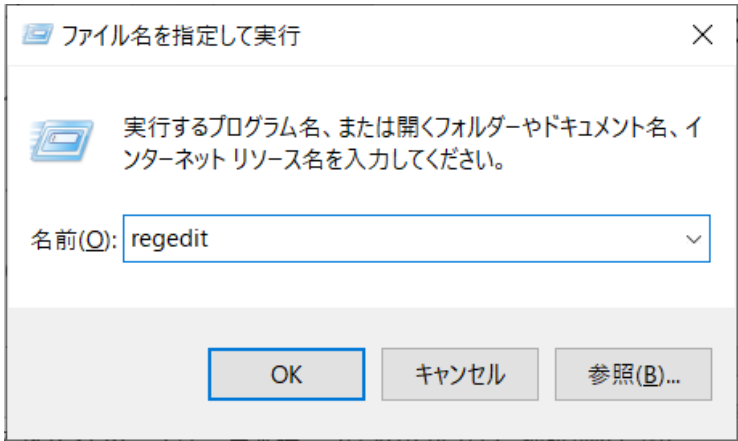
オートログインするアカウントのユーザ名と  
パスワードを入力し、OKボタンを押下。

# 1-5 Windows オートログイン設定 (2/3)

前頁の手順2のチェックボックスが表示されない場合は、以下の手順1～6を先に行ってください。

## 手順 1

 + 「R」 で「ファイル名を指定して実行」を開く。



“regedit” と入力し、  
「Enterキー」もしくはOKボタンを押下。

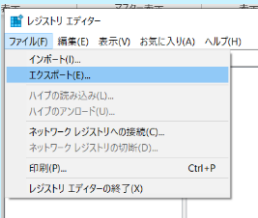
## 手順 2

レジストリエディタが起動する。



“コンピューター”の下の  
“HKEY\_LOCAL\_MACHINE”を選択

念のため・・・  
作業の前に“ファイル”>“エクスポート”で  
レジストリファイルをバックアップして  
おきましょう。

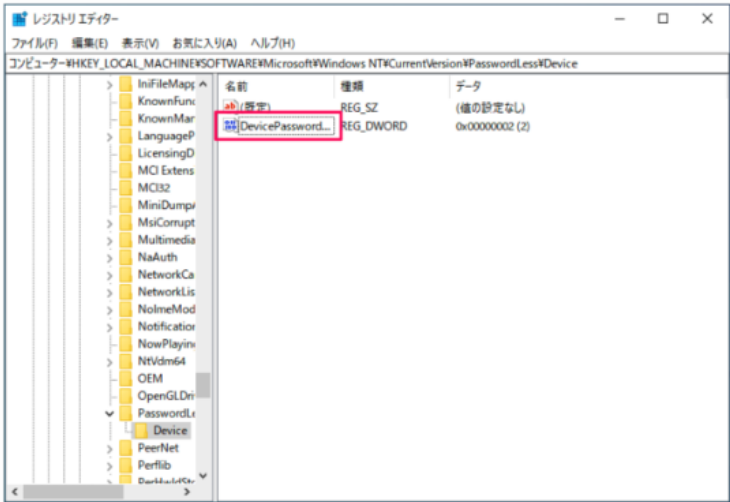


## 手順 3

レジストリの修正を行う。

「HKEY\_LOCAL\_MACHINE」から以下のようにたどります……ちょっと長いです。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE  
→ SOFTWARE  
→ Microsoft  
→ Windows NT  
→ CurrentVersion  
→ PasswordLess  
→ Device

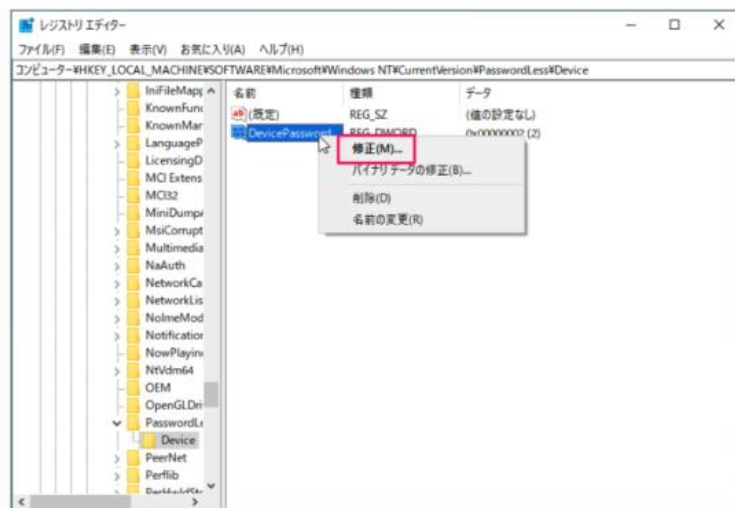


「DevicePasswordLessBuildVersion」を選択し、右クリックすると



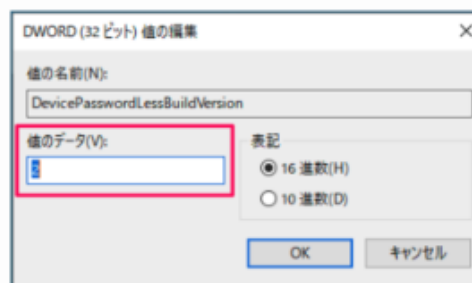
## 1-5 Windows オートログイン設定 (3/3)

### 手順 4

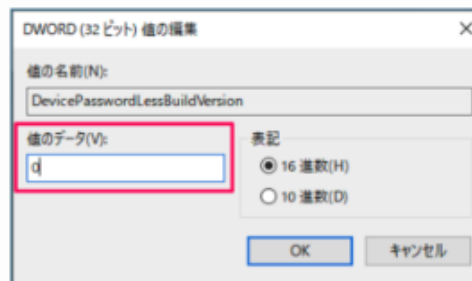


このようにメニューが表示されるので、「修正」をクリックします。

### 手順 5



値のデータが「2」になっているので



「0」に変更し、「OK」をクリックします。


### 手順 6

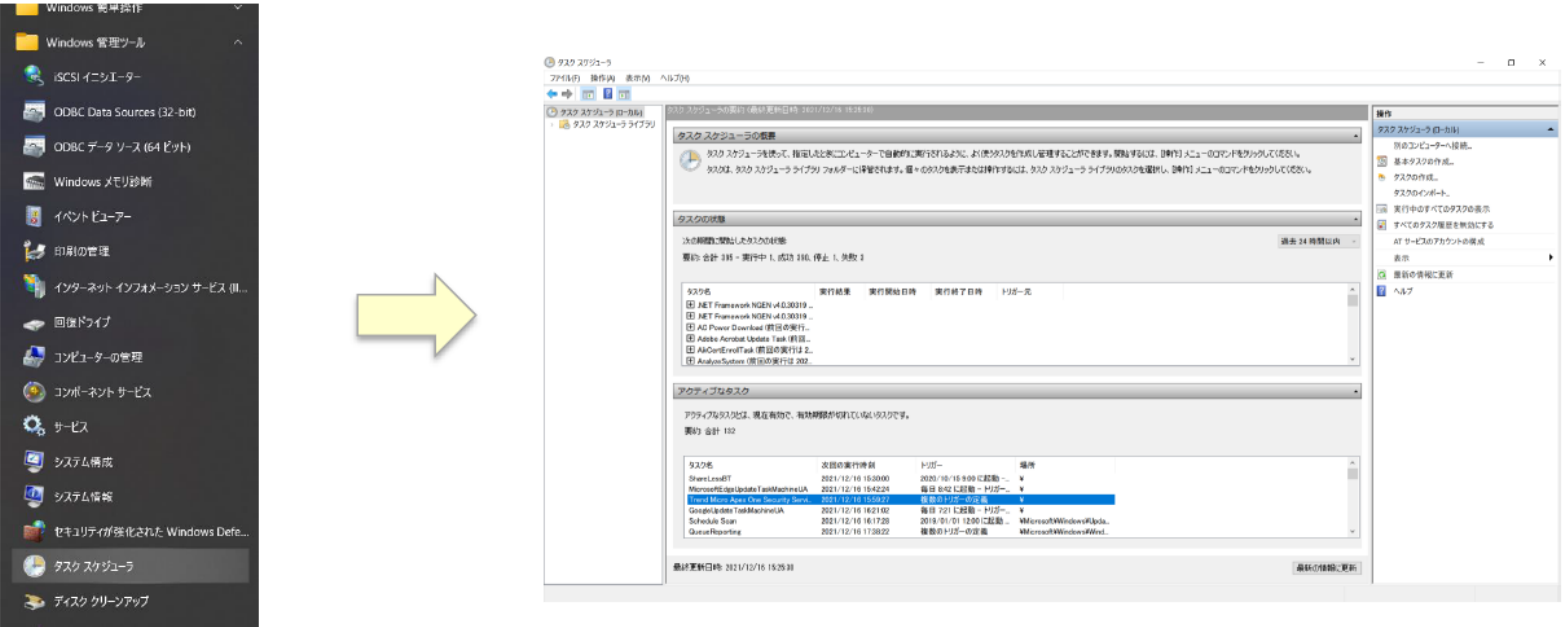


Windows を再起動しましょう。

手順 1

## 1)タスクスケジューラの起動

デスクトップ左下のスタートボタン (  ) をクリック、スタートメニューを表示し、  
【Windows管理ツール】から【タスクスケジューラ】をクリックします。  
⇒タスクスケジューラが起動します。

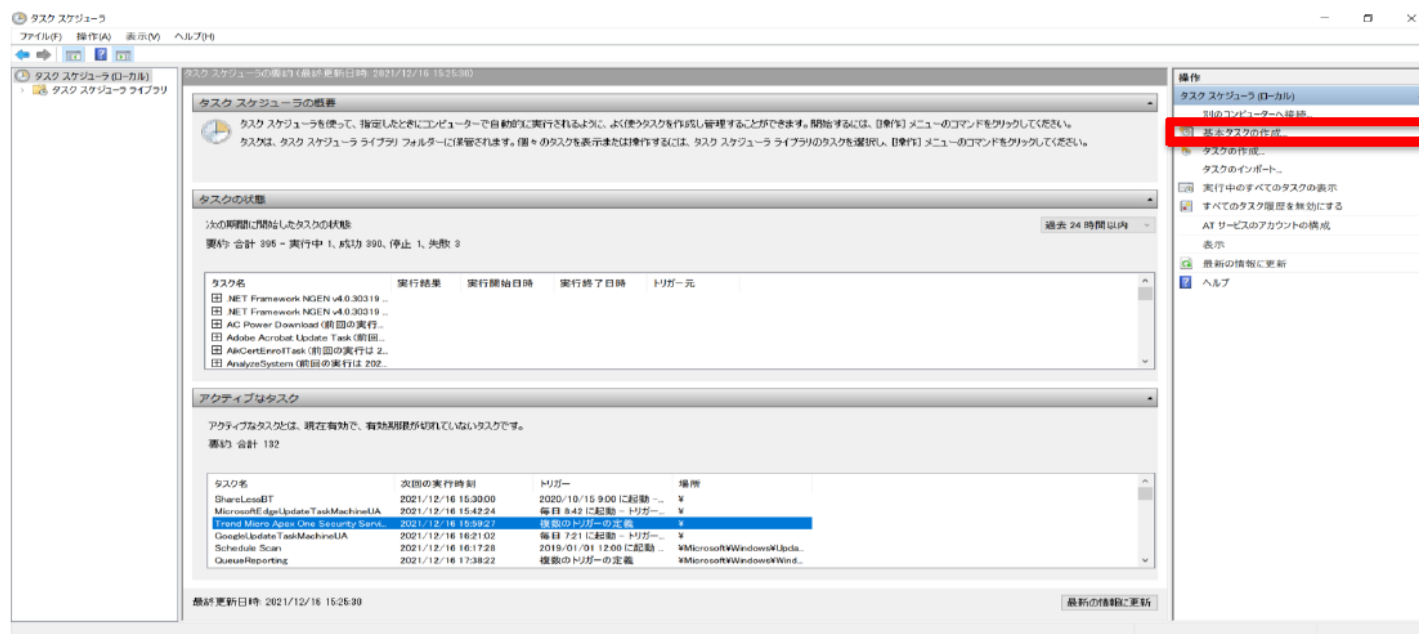


## 手順 2

### 2)基本タスクの作成ウィザードの起動

タスクスケジューラ左のツリーで【タスクスケジューラ（ローカル）】フォルダを選択してから、右側の操作ペインで【基本タスクの作成】をクリックします。

⇒ 基本タスクの作成ウィザードが起動します。



### 手順 3

### 3)基本タスクの作成

名前(A)と説明(D)に任意の文字列を入力し、「次へ(N)」ボタンを押下します。

★下記画面では一例として名前に「PC再起動」、  
説明に「定期スケジュール 1 分後にPCを再起動させる」を入力しています。



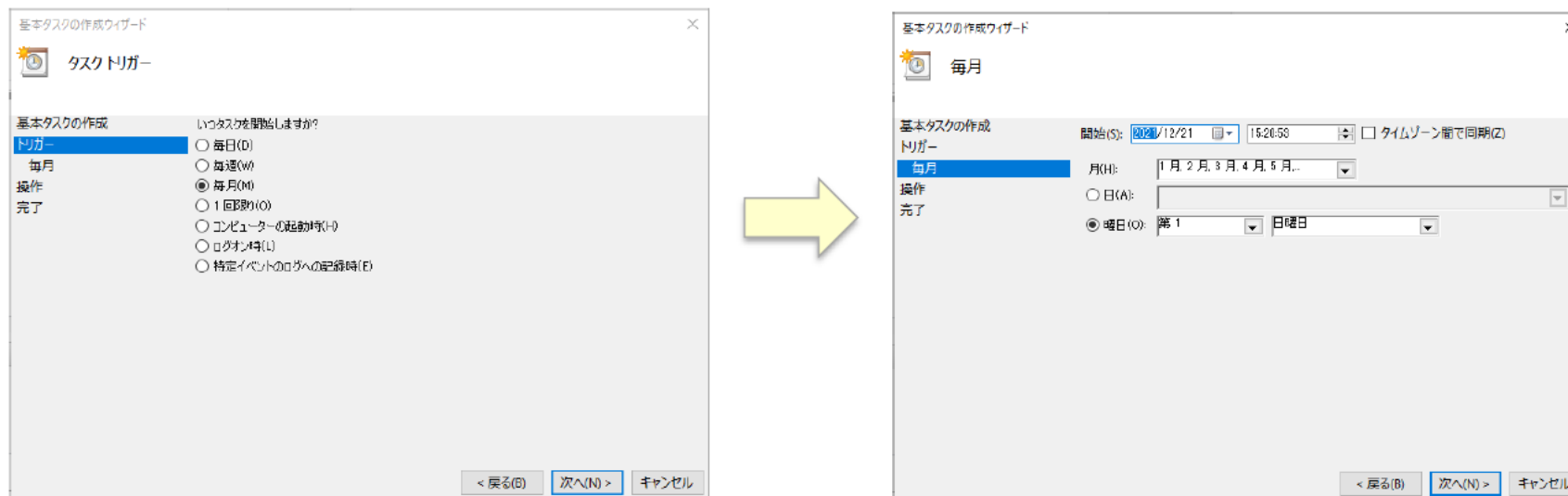
### 手順 4

#### 4) タスクトリガー

「毎日(D)」、「毎週(W)」、「毎月(M)」のいずれかにチェックして、「次へ(N)」を押下してください。

**【重要事項】現場の環境に合わせて適切な間隔で再起動の設定を行ってください。**

下記では月1回、第1日日曜日に再起動する場合の例を表示しています。



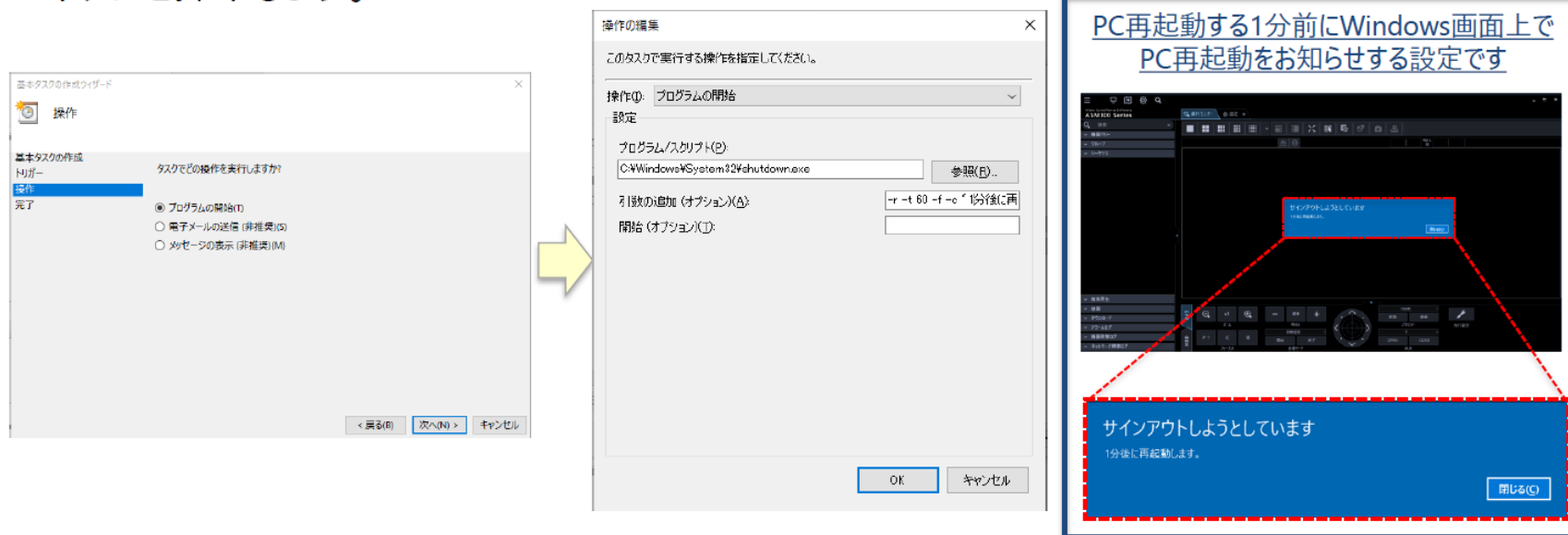
「運用条件一覧」のPC定期リブートの内容に従って設定してください。

### 手順 5

#### 5) プログラムの開始

操作で「プログラムの開始(T)」をチェックし、「次へ(N)」を押下します。

プログラム/スクリプト(P)に「C:\Windows\System32\shutdown.exe」を  
引数の追加(オプション)(A)に「-r -t 60 -f -c "1分後に再起動します。"」を入力して「OK」  
ボタンを押下します。



### 手順 6

#### 6) 要約

登録した内容（「名前」、「説明」、「トリガー」、「操作」）が正しいかを確認のうえ、「[完了]」をクリックしたときに、このタスクの「[プロパティ] ダイアログを開く」にチェックをいれて、「完了(F)」を押下します。

基本タスクの作成ウィザード

要約

基本タスクの作成

トリガー

毎月

操作

プログラムの開始

完了

名前: PC再起動

説明: 定期スケジュール1分後にPCを再起動させる

トリガー: 毎月 月: 1 月, 2 月, 3 月, 4 月, 5 月, 6 月, 7 月, 8 月, 9 月, 10 月, 11 月, 12 月, 週 日

操作: プログラムの開始: C:\Windows\System32\shutdown.exe -r -t 60 -f -c "1分後に再起動"

☒ 完了(F)をクリックしたときに、このタスクの [プロパティ] ダイアログを開く

完了(F)をクリックしたときに、新しいタスクが作成され、Windows スケジュールに追加されます。

< 戻る(B) 完了(F) キャンセル

### 手順 7

### 7) プロパティ (全般)

**【重要事項】「最上位の特権で実行する(I)」に必ずチェックを入れてください。**  
**チェックを入れないと、正常に動作しない場合があります。**

PC再起動のプロパティ (ローカル コンピューター)

全般 トリガー 操作 条件 設定 履歴

名前(M): PC再起動

場所: ¥

作成者: PCC-AD¥3901011

説明(D): 定期スケジュール1分後にPCを再起動させる

セキュリティ オプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント:

ユーザーまたはグループの変更(U)...

☒ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(R)

☐ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

☐ パスワードを保存しない(P) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)

☒ 最上位の特権で実行する(I)

☐ 表示しない(E) 構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008

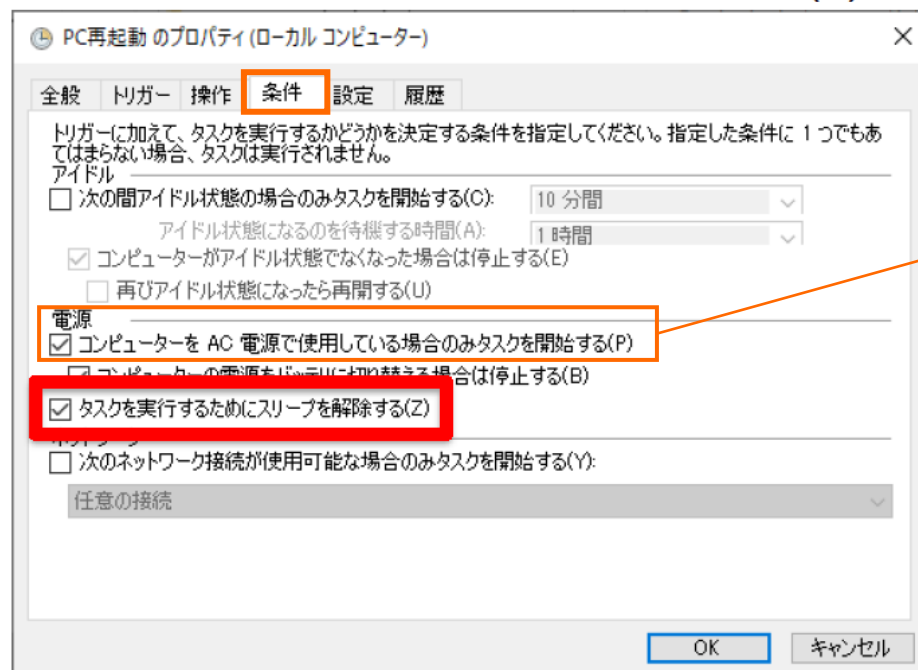
OK キャンセル

前頁の要約ダイアログにて、「[完了]をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ]ダイアログを開く」のチェックを忘れて完了した場合は、本プロパティは自動で表示されませんので、タスクスケジューラーのリストから該当のリストをダブルクリックして表示させてください。

### 手順 8

### 8) 条件

万ーPCがスリープ中でも正常に動作するように、  
「タスクを実行するためにスリープを解除する(Z)」にチェックをいれてください。




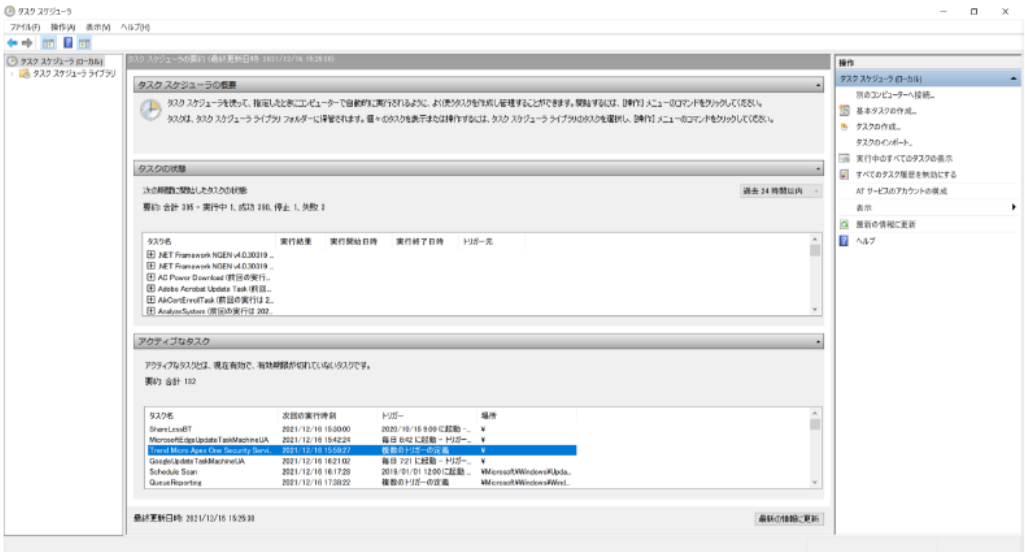
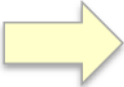
ノートPCでバッテリー駆動時も実行する必要がある場合は、  
このチェックを外す。

最後「OK」ボタンを押下して設定完了です。

## 手順 1

### 1)タスクスケジューラの起動

デスクトップ左下のスタートボタン (  ) をクリック、スタートメニューを表示し、  
【Windows管理ツール】から【タスクスケジューラ】をクリックします。  
⇒タスクスケジューラが起動します。

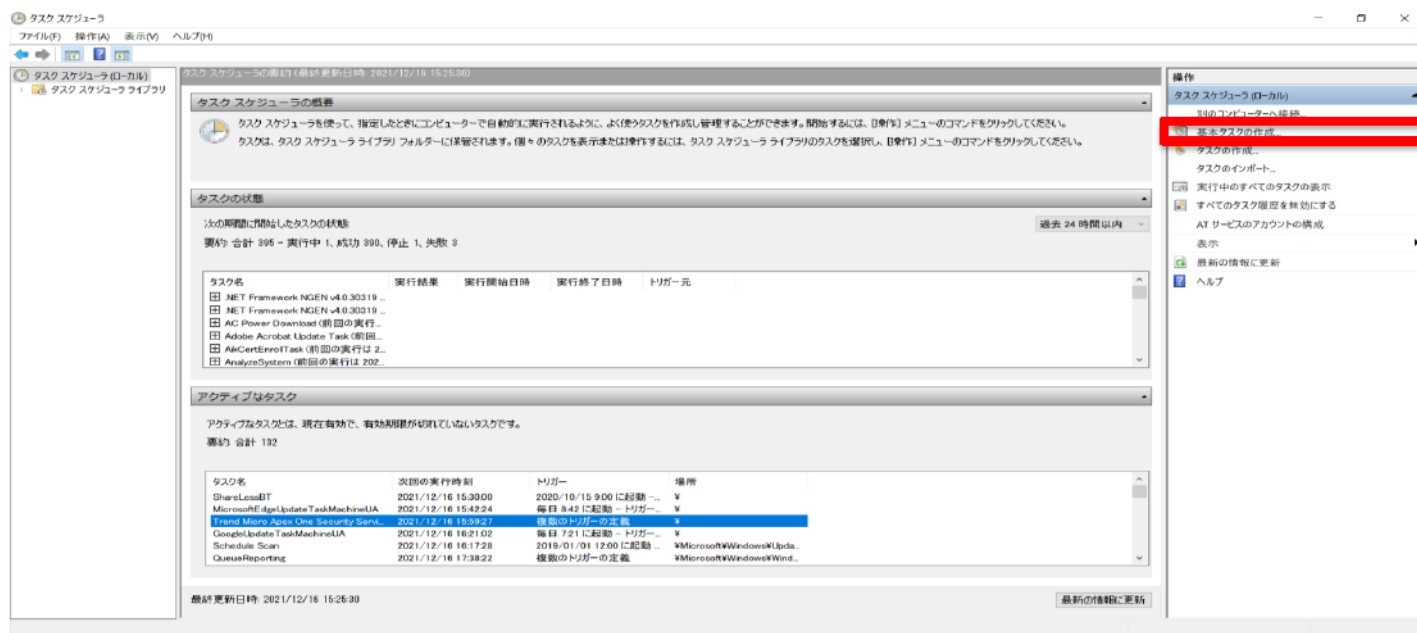


## 手順 2

### 2)基本タスクの作成ウィザードの起動

タスクスケジューラ左のツリーで【タスクスケジューラ（ローカル）】フォルダを選択してから、右側の操作ペインで【基本タスクの作成】をクリックします。

⇒ 基本タスクの作成ウィザードが起動します。



### 手順 3

### 3)基本タスクの作成

名前(A)と説明(D)に任意の文字列を入力し、「次へ(N)」ボタンを押下します。

★下記画面では一例として名前に「ASM300自動起動」、  
説明に「自動ログイン2分後にASM300を自動起動させる」を入力しています。

基本タスクの作成ウィザード

基本タスクの作成

このウィザードでは、よく使うタスクをすばやくスケジュールします。複数のタスク操作やトリガーなどの詳細オプションや設定は、[操作] ページの [タスクの作成] コマンドを使ってください。

名前(A): ASM300自動起動

説明(D): 自動ログイン2分後にASM300を自動起動させる

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

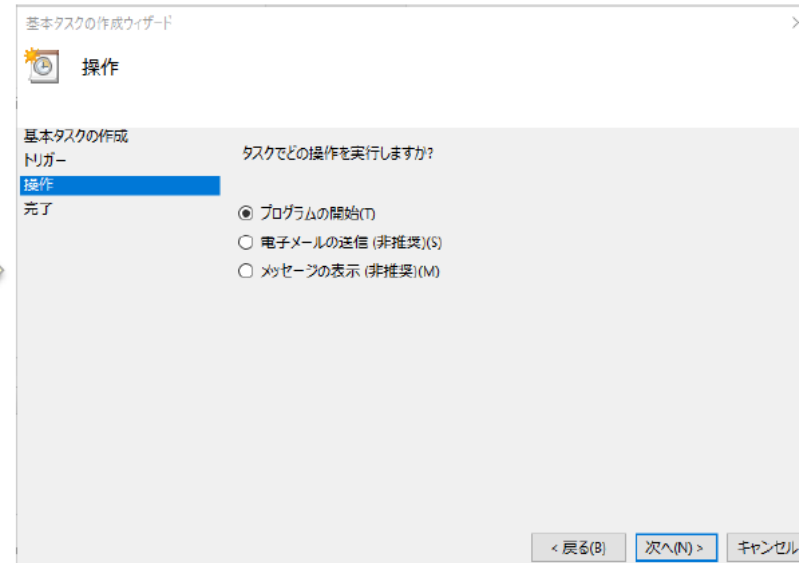
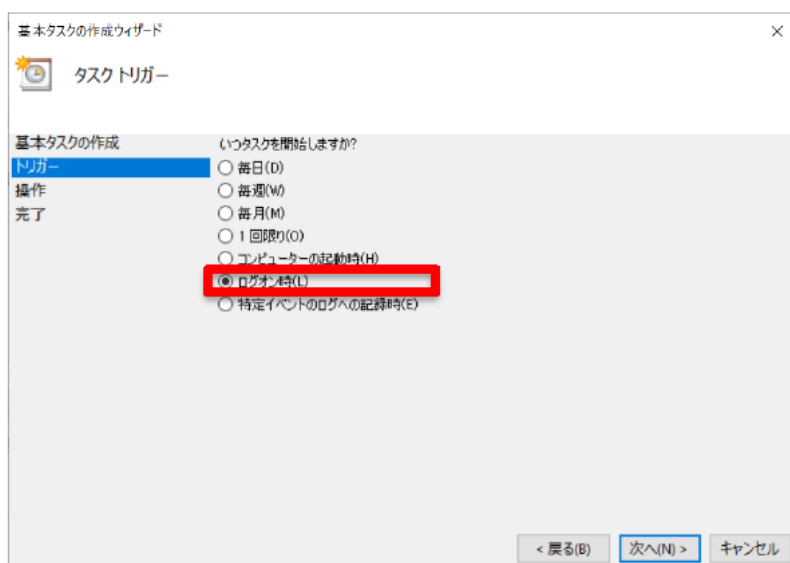


### 手順 4

#### 4)タスクトリガー／操作

トリガーは「**ログオン時(L)**」をチェックし、「次へ(N)」を押下し、  
操作は「プログラムの開始(T)」をチェックし、「次へ(N)」を押下します。

**【重要事項】「コンピューターの起動時」を選択すると、正常に起動できません。**



### 手順 5

#### 5) プログラムの開始

・プログラム/スクリプト(P)に「asm300ope.exe」をフルパスで入力します。

★Windows10/64bitOSで初期状態のままでインストールしていれば、下記記述となります。

**"C:¥Program Files (x86)¥i-PRO¥asm300¥asm300ope.exe"**

(「参照」ボタンから「asm300ope.exe」を指定すると「"""」で囲まれる形になりますが、その記述のままでOKです。)

・開始(オプション)(T)に「asm300ope.exe」が入っている**フォルダ名**を入力します。

★Windows10/64bitOSで初期状態のままでインストールしていれば、下記記述となります。

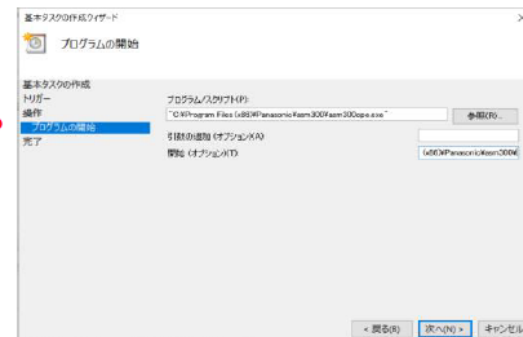
**C:¥Program Files (x86)¥i-PRO¥asm300¥**

**【重要事項】以下の通りに指定しないと、正常に実行されません。**

・最後は「¥」で終わる。

・「"""」で囲う形にしてはいけない。

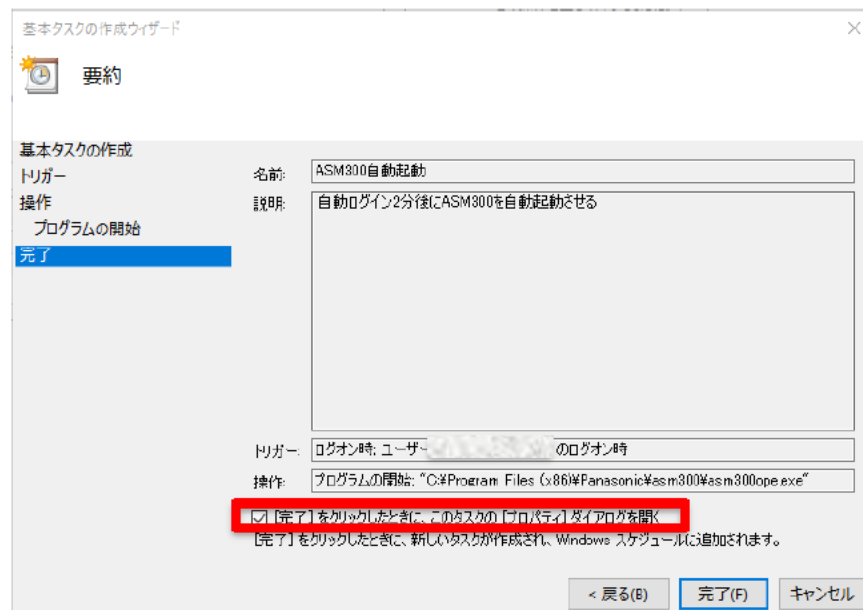
・引数の追加(オプション)(A)には記載しない。



### 手順 6

#### 6) 要約

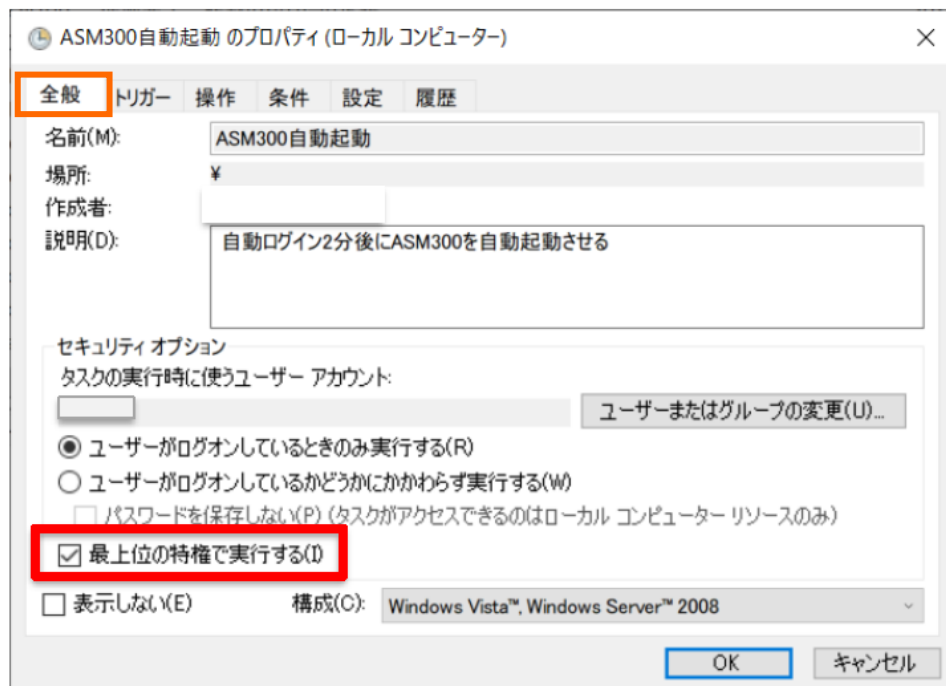
登録した内容（「名前」、「説明」、「トリガー」、「操作」）が正しいかを確認のうえ、「[完了]」をクリックしたときに、このタスクの「[プロパティ] ダイアログを開く」にチェックをいれて、「完了(F)」を押下します。



### 手順 7

### 7) プロパティ (全般)

「最上位の特権で実行する(I)」にチェックを入れる。



前頁の要約ダイアログにて、「[完了]をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ]ダイアログを開く」のチェックを忘れて完了した場合は、本プロパティは自動で表示されませんので、タスクスケジューラーのリストから該当のリストをダブルクリックして表示させてください。

## 手順 8

### 8) プロパティ (トリガー)

「編集(E)」ボタンを押下すると、トリガーの編集ダイアログが表示されます。

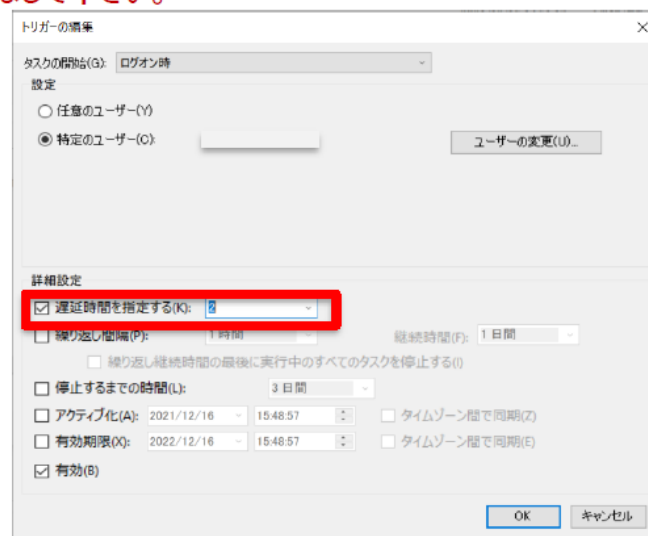
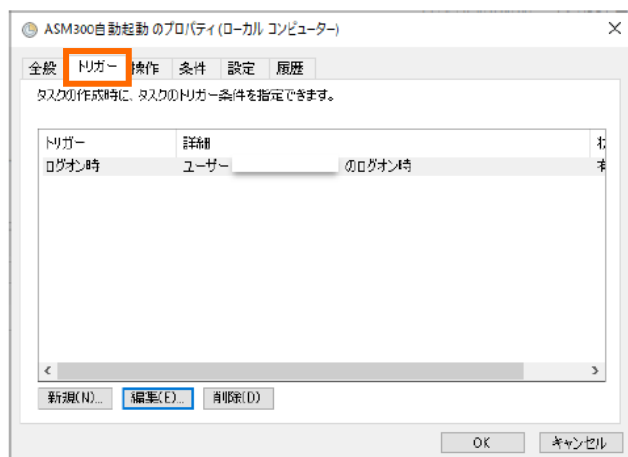
「遅延時間を指定する(K)」にチェック、数字で **2** を入力して、「OK」ボタンを押下してください。

本設定をすることでログイン後の**2分後(＊)**にASM300/ASM30が起動されることになります。

**【重要事項】遅延時間を指定しないと、環境によっては正常に動作しない場合があります。**

＊ PC起動直後はOSのサービスなどの起動状況によっては ASMが正常起動しない場合があるため 遅延起動2分としています。

正常起動しない場合は、遅延起動時間設定を 5分程度まで延ばして下さい。

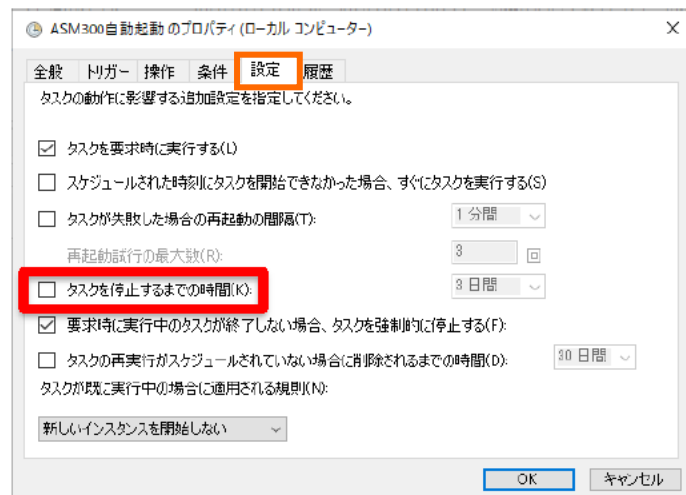


## 手順 9

### 9) プロパティ (設定)

「タスクを停止するまでの時間(K)」のチェックを外してください。

**【重要事項】**本チェックがされたままの場合、指定期間後（デフォルトでは3日後）に、  
**ASM300/ASM30がOSにより終了されてしまいます。**



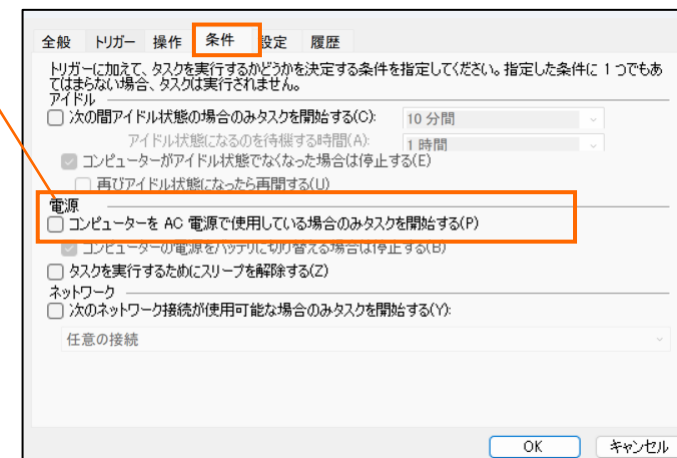
プロパティのその他の項目については、  
基本デフォルトのまま触らないようにしてください。

最後に「OK」ボタンを押下したら、設定完了となります。

## 手順10


### 10) ノートPCの場合

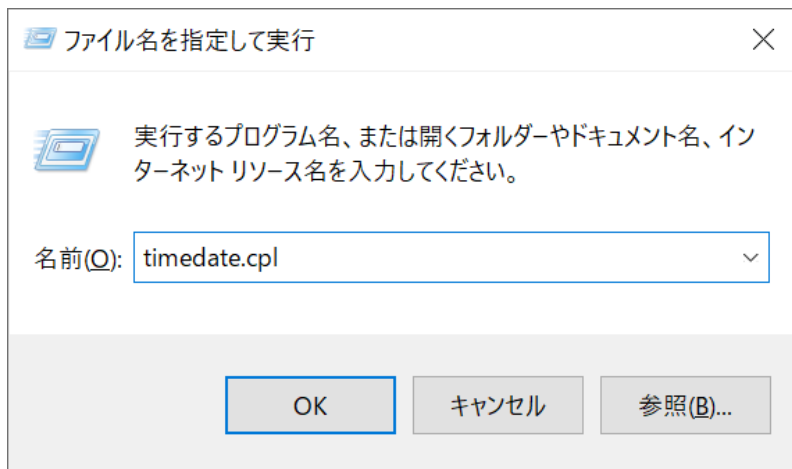
ノートPCでバッテリー駆動時も実行する必要がある場合は、  
「条件」タブのこのチェックを外す。



## 1-8 NTP時刻同期 (1/2)

### 手順 1

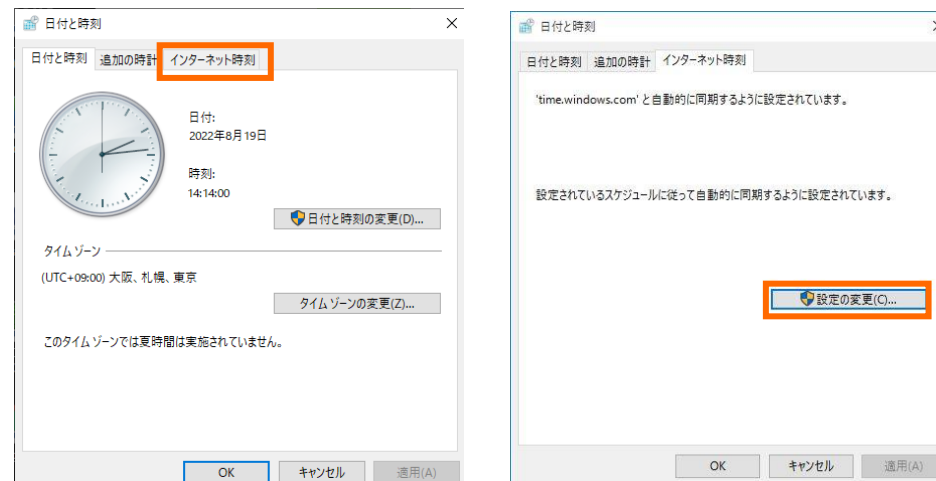
 + 「R」 で「ファイル名を指定して実行」を開く。



“ **timedate.cpl** ” と入力し、「Enterキー」もしくはOK ボタンを押下。

### 手順 2

日付と時刻が起動。インターネット時刻を選択。



デフォルトでは「time.windows.com」と自動的に同期するように設定されています。次に「設定の変更」ボタンを押下。



「ファイルを指定して実行」ではなく  
「スタート」→「設定」→「時刻と言語」→「日付と時刻」→「別のタイムゾーンの時計を追加する」→「インターネット時刻設定」→「設定の変更」を選択でも可能

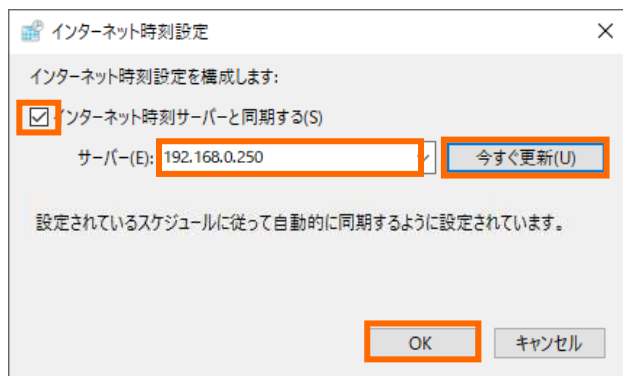


## 1-8 NTP時刻同期 (2/2)

### 手順 3

レコーダーを同期先のタイムサーバーとして登録し、時刻同期させます。

“・・・同期する”にチェックをいれて、  
レコーダーのアドレスを入力します。



[今すぐ更新]のボタンを押下すると

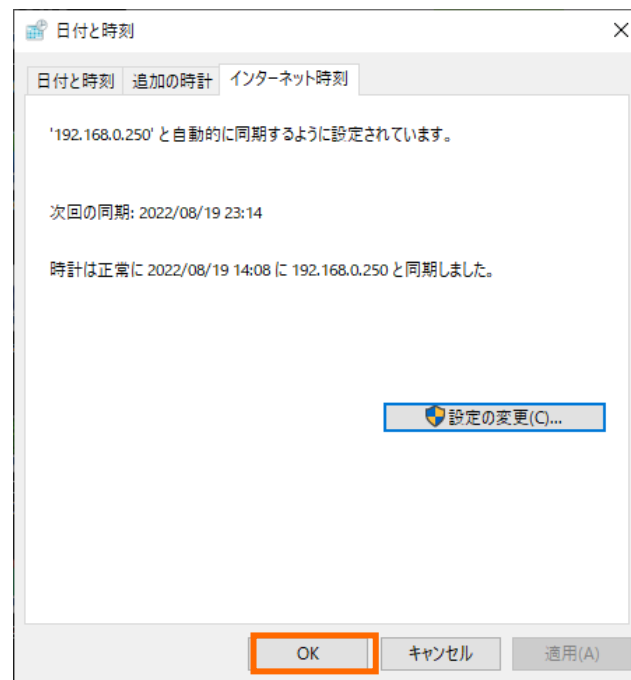
192.168.0.250 と同期しています。お待ちください。

の表示に変わり、同期がとれると

時計は正常に 2022/08/19 14:08 に 192.168.0.250 と同期しました。

上記表示に変わります。

[OK]ボタンを押下します。



[OK]ボタンを押下し完了です。

# 1-9 Windows Update 無効化

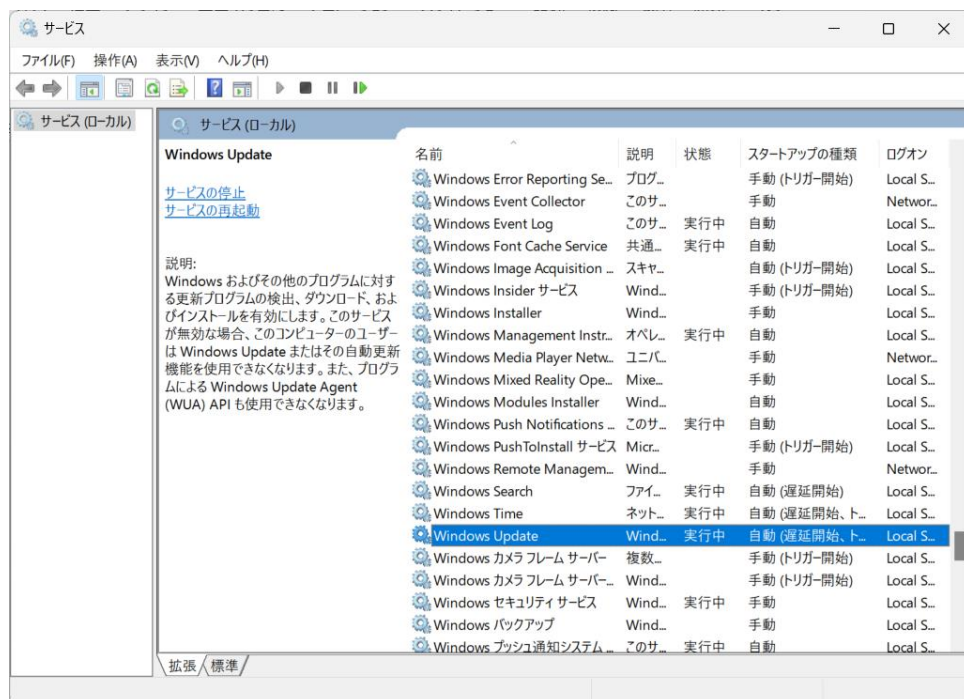
手順 1

「コンピューターの管理」メニュー、  
またはアプリの検索で「サービス」を開く。



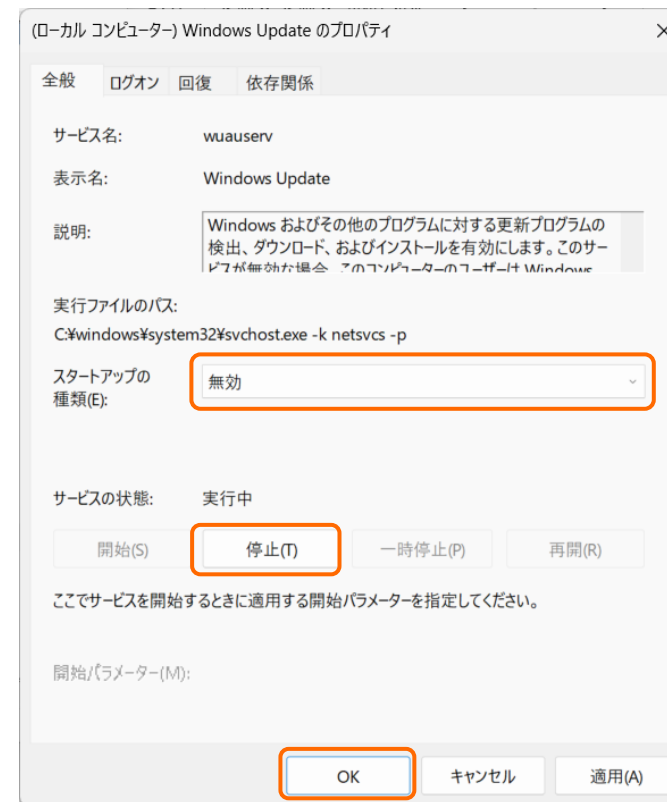
手順 2

「Windows Update」を選択



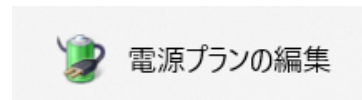
手順 3

スタートアップの種類を「無効」にし、「停止」をクリック。  
最後に「OK」を押す。



## 1-10 電源オプション設定

手順 1 Windowsの「電源プランの編集」を開く。



手順 2 「ディスプレイの電源を切る」と「コンピューターをスリープ状態にする」の両方を“適用しない”にし、「変更の保存」を押す。



### 手順 1

下記サイトよりASM300の最新ソフトを入手し、インストールする。

[WV-ASM300WUX | i-PRO Products](https://i-pro.com/products_and_solutions/ja/surveillance/documentation-database)

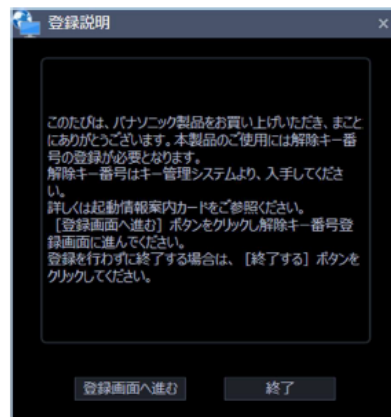
[https://i-pro.com/products\\_and\\_solutions/ja/surveillance/documentation-database](https://i-pro.com/products_and_solutions/ja/surveillance/documentation-database)

### 手順 2

AWM300のライセンス登録を行う。

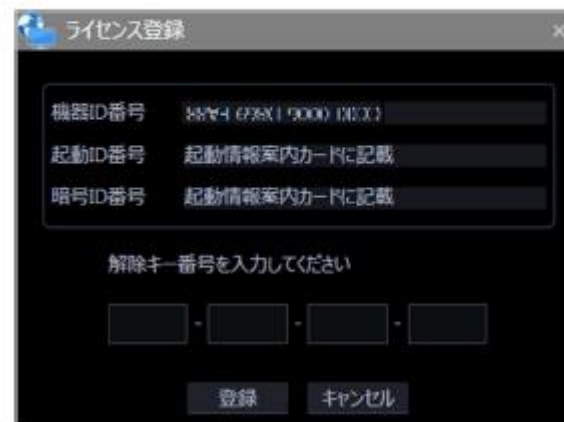
#### STEP1

登録説明画面に記載されている内容をお読みいただき、[登録画面へ進む] ボタンをクリックします。



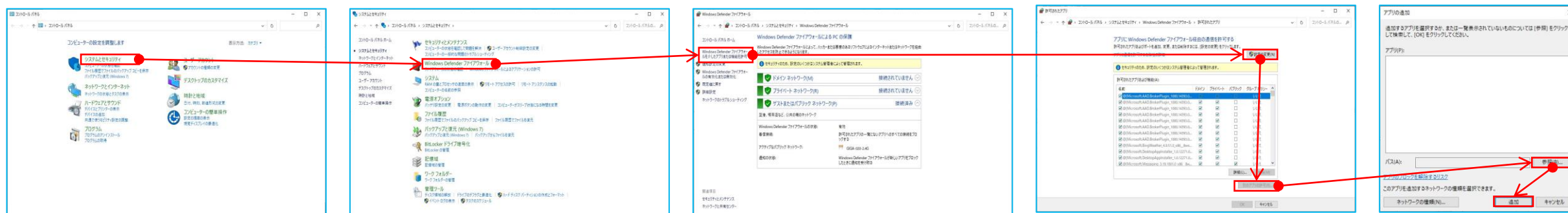
#### STEP2

キー管理システムで取得した解除キー番号を入力します。



## 手順3 Windowsのファイアウォールの例外設定を行う

- ① [スタート]>[Windowsシステムツール]>[コントロールパネル] を選択して、コントロールパネルを開きます。
- ② [システムとセキュリティ]>[Windows Defender ファイアウォール] を選択してファイアウォールの状態を確認します。  
ファイアウォールが無効になっている場合は有効にしてください。
- ③ [Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可]>[設定の変更]>[別アプリの許可] を選択してアプリの追加を開き、[参照]を押下して、通信を許可するアプリを選択してから[追加]を押下します。
- ④ 選択したアプリが追加されたら、ネットワーク（ドメイン/プライベート/パブリック）全てにチェックをいれます。
- ⑤ 下記全てのアプリの追加が終わったら「OK」を押下します。



MEMO

ASM300の通信を許可する際は、「C:\Program Files (x86)\i-PRO\asm300」の下記実行ファイルをすべて選択してください。

- asm300ope.exe    • asm300live!P.exe    • asm300srv.exe    • asm300tlsrv.exe
- ASMDownloadQueue.exe    • ASDBService.exe    • HttpReceiveService.exe

## 手順 1

ナンバー認識用機能拡張ソフトウェアWV-ASE334をインストールする前に、事前にハードディスクのデフラグ用ツールをインストールする必要があります。

### STEP1

「Contig.zip」を以下の URL からダウンロードします。

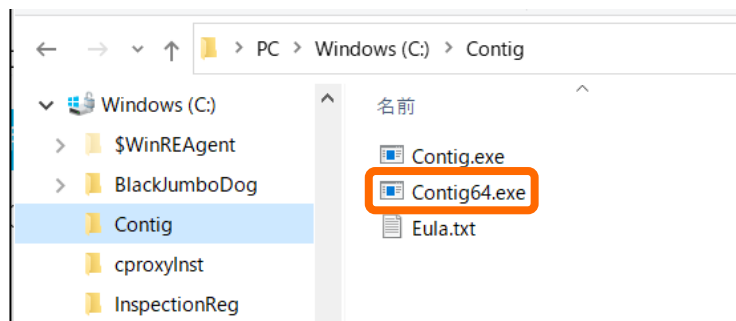
<https://docs.microsoft.com/en-us/sysinternals/downloads/contig>

#### メモ

- 「Contig」は、Microsoft 社が提供しているデフラグ用のツールです。  
デフラグツールは、ディスクを最適化するためにファイルの位置を物理的に再配置する工具のことです。
- 「Contig」は、バージョン 1.8.0.0 以降をお使いください。

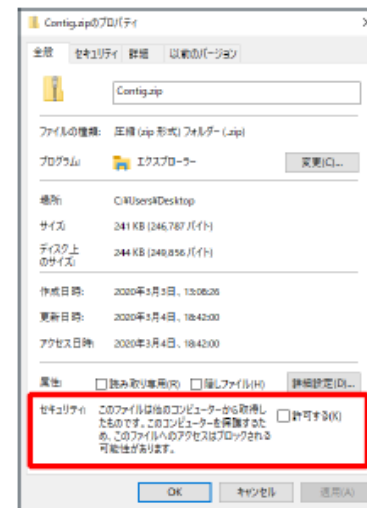
### STEP2

ダウンロードした Contig.zip を解凍します。「C:\¥Contig」フォルダーを作成し、「Contig64.exe」を保存します。



#### メモ

- Contig.zip を右クリックしてプロパティ画面を開いたときに、下図の表示がある場合は「許可する(K)」にチェックを入れて【OK】ボタンをクリックしてから解凍してください。



### 手順 2

映像監視ソフトウェアWV-ASM300にナンバー認識用機能拡張ソフトウェアWV-ASE334Wをインストールします。

- ① 最新版のWV-ASE334Wのインストーラー「numbercatch.plg」を以下のURLからダウンロードします。

[https://i-pro.com/products\\_and\\_solutions/ja/surveillance/products/wv-ase334wux](https://i-pro.com/products_and_solutions/ja/surveillance/products/wv-ase334wux)

- ② ダウンロードした「numbercatch.plg」を任意のフォルダーに保存する。

- ③ 映像監視ソフトウェアASM300の設定画面の「追加アプリ登録」をクリック。

- ④ 右の画面の「参照」をクリック。

- ⑤ ファイル選択画面で予めダウンロードした「numbercatch.plg」ファイルを選択し開く。

- ⑥ 画面に“ナンバーキャッチをインストールする”が表示されたら「インストール」をクリック。

- ⑦ 画面の指示にしたがってインストールする。





手順3 カメラからのナンバー認識情報を受信するためには、ファイアウォールの例外設定が必要になります。

## STEP1

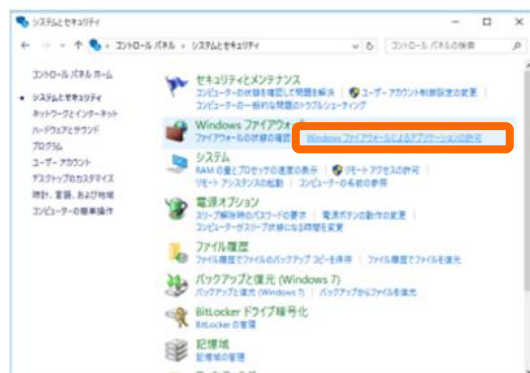
コントロールパネルの【システムとセキュリティ】をクリックします。



→ システムとセキュリティ画面が表示されます。

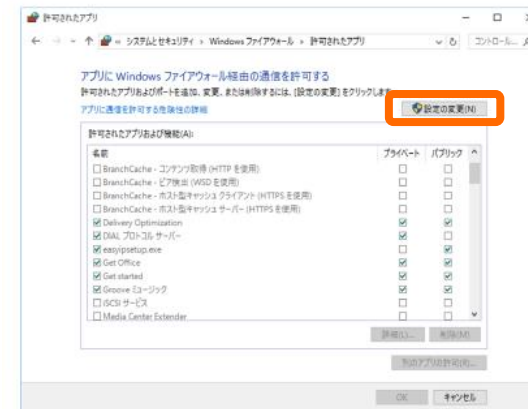
## STEP2

【Windows ファイアウォール】 - 【Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可】をクリックします。



## STEP3

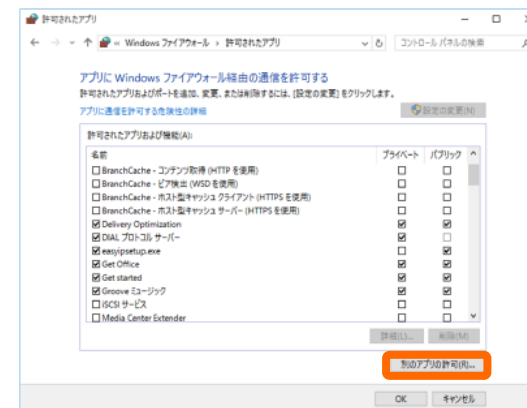
【設定の変更(N)...】 ボタンをクリックします。



→ 設定の変更が可能になります。

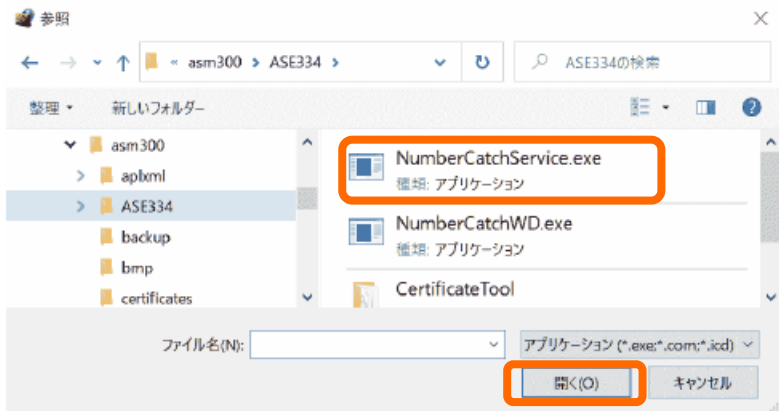
## STEP4

【別のアプリの許可(R)...】 ボタンをクリックします。



## STEP5

[参照(B)...] ボタンをクリックします。  
→ 参照画面が表示されます。



## STEP6

「NumberCatchService.exe」を選択し、「開く(O)」ボタンをクリックします。

### メモ

- 「NumberCatchService.exe」は、以下の場所に保存されています。  
**C:¥Program File(x86)¥i-PRO¥asm300¥ASE334**

## STEP7

[追加] ボタンをクリックします。



## STEP8

元の画面の許可されたアプリのリスト画面に“NumberCatchService”が登録されたことを確認し、使用するネットワークプロファイルにチェックを入れる。

許可されたアプリおよび機能(A):				
名前	ドメイン	プライベート	パブリック	グループポリシー
<input checked="" type="checkbox"/> NTP Server	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	いいえ
<input checked="" type="checkbox"/> NumberCatchService	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	いいえ
<input checked="" type="checkbox"/> Office	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	いいえ

### 手順 4

ナンバー認識用機能拡張ソフトウェアWV-ASE334のライセンス解除キーを登録します。

- ① 映像監視ソフトウェアASM300の設定画面の「**ライセンス登録**」をクリック。
- ② 右の画面の「**追加**」をクリック。
- ③ 予め取得した**解除キー**を入力。
- ④ 「**入力保存**」をクリック。
- ⑤ 入力された解除キー番号の情報を確認し、「**登録**」をクリック。
- ⑥ 登録確認画面にて「**OK**」をクリック。



#### 重要

- 一度登録された解除キー番号は本ソフトウェア上で解除することができません。登録に間違いがないか必ず確認してください。
- [OK] ボタンをクリックすると自動的に ASM300 が再起動されます。

# PC交換 2（アプリケーション）

ASM300、ASE334ナンバーアプリの設定復元

## 2-1 ASM300の設定バックアップとリストア

手順 元のASM300の設定データをPCへコピーし、下記の**リストア（設定復旧）**操作を行ってください。

ASM300へログインし、

①「メンテナンス」を選択

### ■バックアップ（設定保存）

<設定セーブ>

②「セーブ」をクリック



保存先を選択し「保存」

- ・設定データ  
“Setupdata\_yyyymmddhhmmss.bak”  
(年月日時分秒)

### ■リストア（設定復旧）

<設定ロード>

③ 設定データを選択し、「ロード」をクリック



## 2-2 ASE334ナンバーキャッチアプリの設定バックアップとリストア（1/2）

### 手順

元のASE334ナンバーアプリのバックアップデータを用意し、**次頁のリストア（設定復旧）** 操作を行ってください。

ASM300へログインし、

- ①「設定」>「ナンバーキャッチ」  
>「バックアップ設定」を選択

### ■バックアップ（設定保存）

<手動バックアップ>

- ②「実行」をクリック
- ③「ステータス問合せ」をクリックし進行状況確認
- ④バックアップが完了したら、  
バックアップ保存先フォルダー（右画面の下線部）  
に作成された最新のバックアップデータの  
以下を1セットとして別の媒体にコピーする。

- (1) ase334\_yyyyMMddHHmmss.bak
- (2) ase334\_yyyyMMddHHmmss.log
- (3) ase334\_yyyyMMddHHmmssフォルダ  
およびその中身（Http.log、Image.zip）

- ⑤ ASM300の設定もバックアップし、  
上記ファイルと一緒にセットで保存しておく。



## 2-2 ASE334ナンバーキャッチアプリの設定バックアップとリストア (2/2)

手順 新PC（異なるPC）で復旧するには、元のASM300の設定データも必要で、それを先に復元する必要があります。

### ■ リストア（設定復旧）

#### <同じPCで設定を復旧する場合>

- ① ASM300へログインし、  
「設定」>「ナンバーキャッチ」  
>「バックアップ設定」を選択
- ② 復旧の「ファイル参照」をクリックし、  
バックアップ保存先フォルダー内の復旧したい日時  
の“ase334\_yyyyMMddHHmmss.bak”を選択する。
- ③ 復旧の「実行」をクリック
- ④ PCを再起動する

#### <異なるPCで復旧する場合>

- ① 元のPCのASM300とASE334の設定データを用意
- ② 新PCにASM300とASE334をインストール
- ③ 新PCのASM300を旧PCの設定データで復元
- ④ PCを再起動
- ⑤ 新PCのASE334のバックアップ保存先フォルダに  
元PCのASE334のバックアップファイル一式をコピー
- ⑥ 復旧の「ファイル参照」でバックアップ保存先フォルダ  
内の元PCの“ase334\_yyyyMMddHHmmss.bak”を選択
- ⑦ 復旧の「実行」をクリック
- ⑧ PCを再起動する



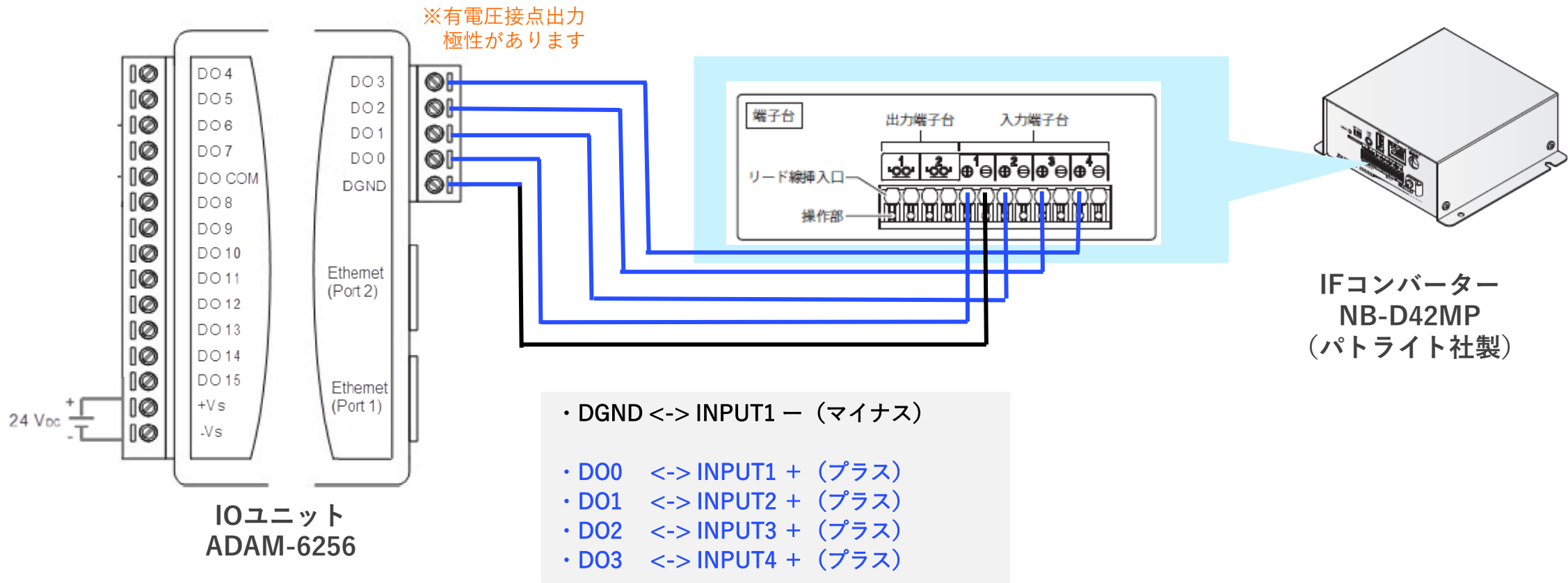


# 外部機器

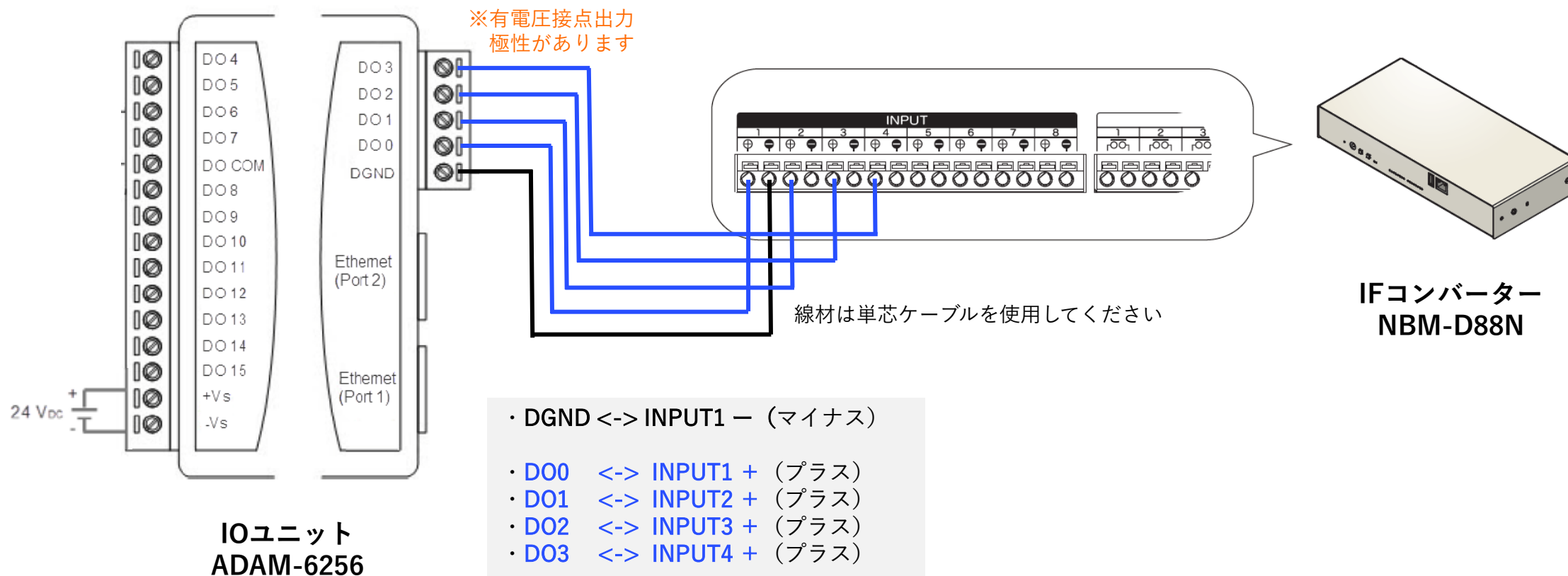
IOユニット、パトライト、IFコンバーターの設定復元

# 1. IOユニット

IOユニットとIFコンバーターB（NB-D42MP）の接点信号の入出力は、以下のように接続してください。



IOユニットとIFコンバーターA (NBM-D88N) の接点信号の入出力は、以下のように接続してください。



## 1-2 IPアドレス設定 (1/2)

IOユニットの使用にあたっては、下記手順にて事前にIPアドレスを設定します。

### 手順

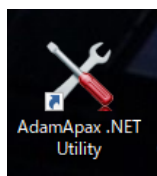
- ① 専用の設定ツールソフト「**Adam/Apax.NET Utility**」を以下のURLからPCにダウンロードします。

<https://www.advantech.com/ja-jp/support/details/utility?id=1-2AKUDB>

- ② ダウンロードしたファイル「AdamApax .NET Utility V\*\*\*\*」を実行し、設定ツールをPCにインストールします。

- ③ 設定するIOユニットADAM-6256をPCと同じネットワークに接続します。

- ④ 設定ツールを起動します。



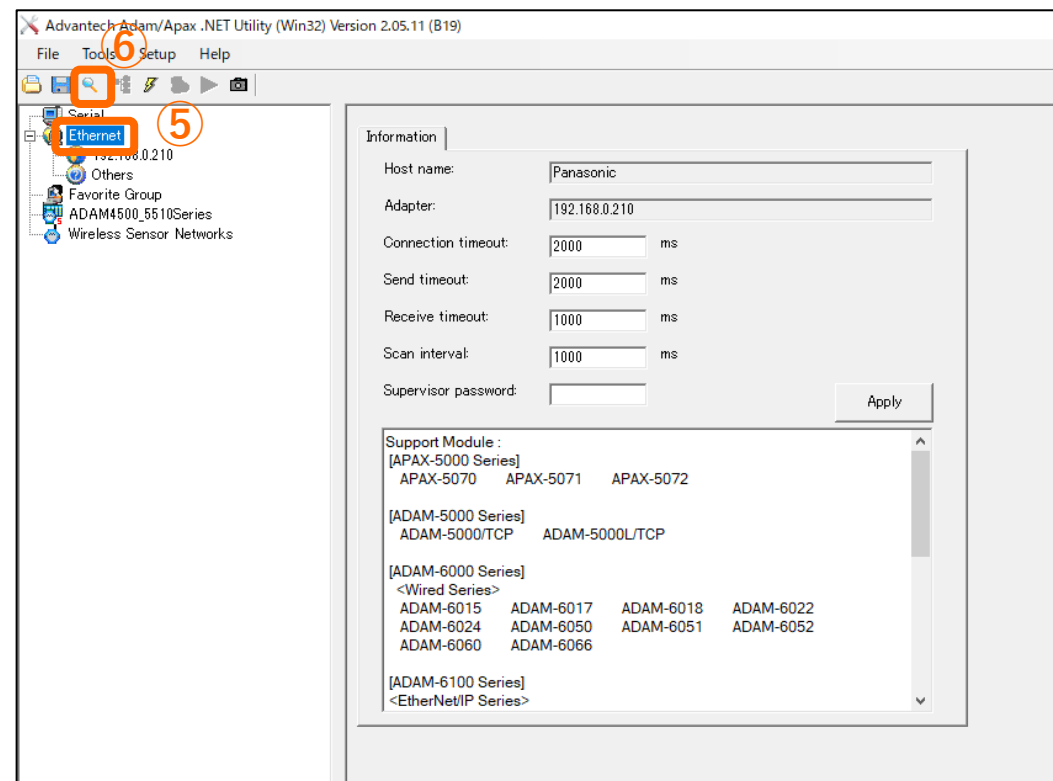
- ⑤ 右の画面が表示されたら、「**Ethernet**」をクリック。

- ⑥ メニューバーの**虫眼鏡のアイコン**をクリックするか、「Ethernet」上で**右クリックし「Search Device」**を実行。



ネットワーク上のADAM-6256の検索を開始します

(次ページへ続く)



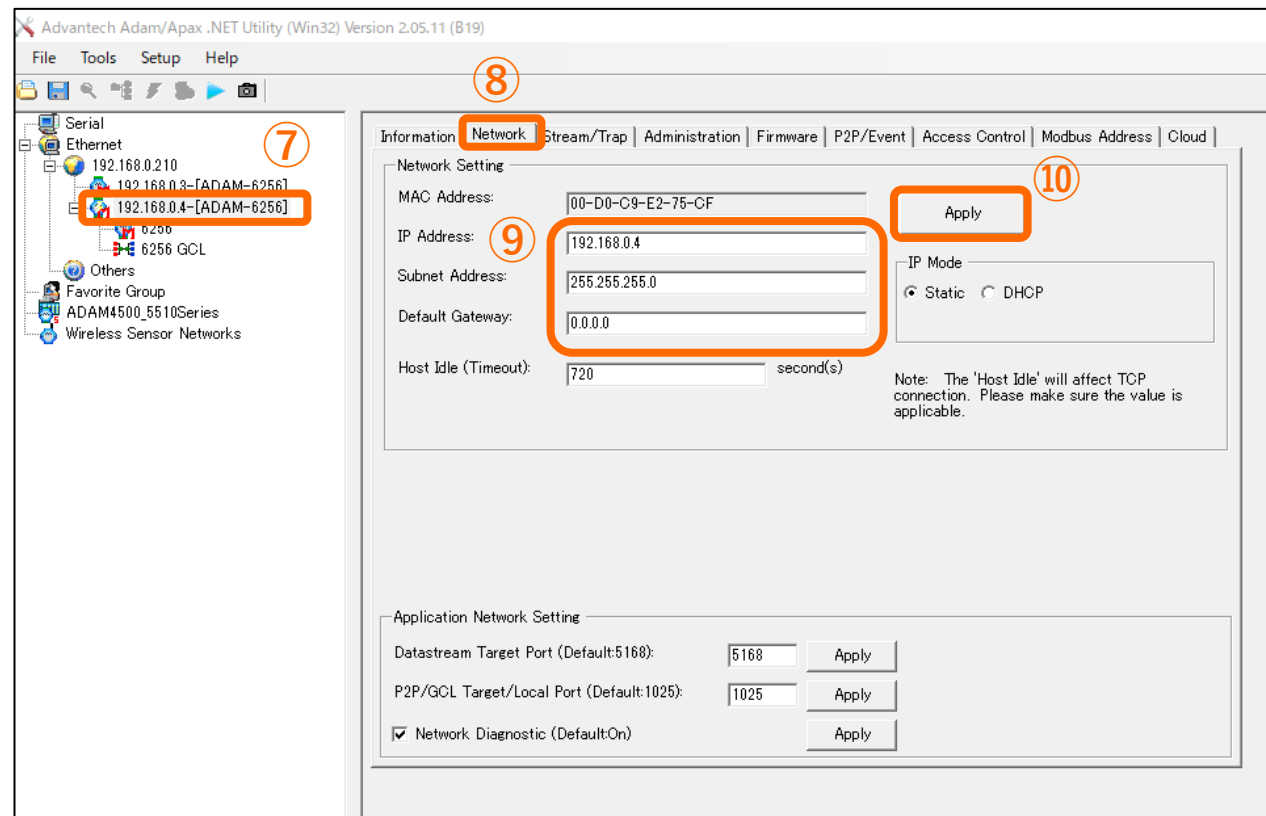
## 1-2 IPアドレス設定 (2/2)

IOユニットの検出ができると機器ツリーに表示されます。

- ⑦ 設定するIOユニットをクリックし選択。
- ⑧ 右画面の「**Network**」タブをクリック。
- ⑨ IPアドレス、サブネットマスク等を入力。
- ⑩ 最後に「**Apply**」をクリック。

↓  
パスワードが要求されたら以下を入力  
00000000 (ゼロが8個)

<設定終了>



- 2. ・パトライト
- ・インタフェースコンバーターB  
(ゲート側 NB-D42MP)



## 2-1 IPアドレス設定 (1/2)

### ■パトライト、インタフェースコンバータB（ゲート側 NB-D42MP）



#### 手順1 管理者の設定

1 Webブラウザを起動する。

2 本製品に設定したIPアドレス<sup>※</sup>をWebブラウザアドレス部分に入力する。

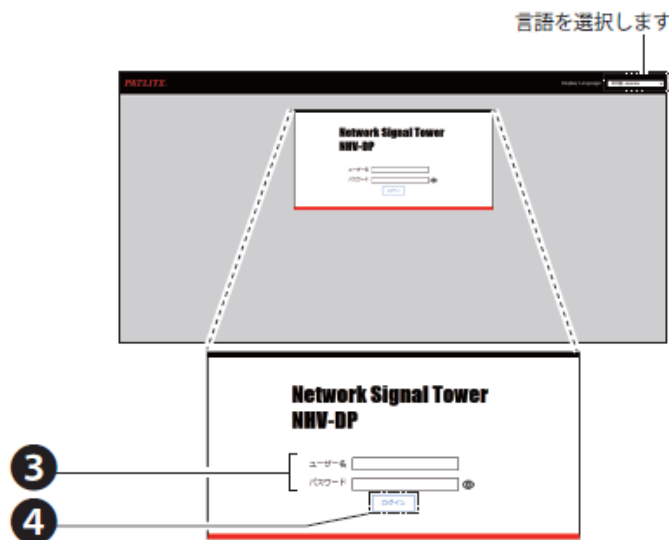
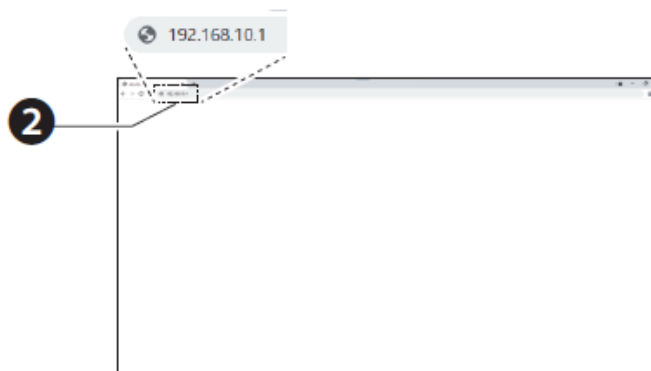
※ 工場出荷時のIPアドレスは、「192.168.10.1」です。

※ ユーザー認証設定画面が表示されない場合は、パソコンのネットワーク設定がただしく設定されているか確認してください。  
「7.2. パソコンのネットワーク設定をおこなう（P.93）」

3 言語を選択し、各項目を入力する。

- ・「ユーザー名」：設定したユーザー名 **“patlite”**
- ・「パスワード」：設定したパスワード **“patlite”**

4 「ログイン」ボタンをクリックしてログインする。



## 2-1 IPアドレス設定 (2/2)

### ■パトライト、インタフェースコンバータB（ゲート側 NB-D42MP）

#### 手順2 IPアドレスの設定

- ① 「本体設定」  
    > 「ネットワーク設定」
- ② “手動設定” にして  
    アドレス情報を変更
- ③ 「設定」押す。

**PATLITE** 機器名称 Network Signal Tower MAC アドレス 80:39:e5:02:52:5c Firmware Version 1.10

本体設定 > ネットワーク設定

機能の有効化  
ネットワーク設定 ①  
LTE通信設定  
時刻設定  
基本設定  
コマンド受信設定  
監視設定  
通知設定  
クラウド設定  
本体操作設定  
音声登録  
管理

IPv4 設定方法 ☒ 手動設定 ☐ 自動設定 ②

IPアドレス 192.168.0.105  
サブネットマスク 255.255.255.0  
デフォルトゲートウェイ ③

IPv6 設定方法 ☒ 手動設定 ☐ 自動設定

IPv6リンクローカルアドレス fe80::8239:e5ff:fe02:525c/64  
IPアドレス  
プレフィックス長  
デフォルトゲートウェイ

DNSサーバーアドレス 設定方法 ☒ 手動設定 ☐ 自動設定

DNSサーバーアドレス 0.0.0.0

デフォルトゲートウェイのない環境でRSHコマンドを使用する場合は登録なしにする（空欄）



## 2-2 設定バックアップとリストア

### ■パトライト、インタフェースコンバータB（ゲート側 NB-D42MP）



#### 手順

ブラウザで各機器へログインし、  
①「管理」>「コンフィグ」を選択

#### ■バックアップ（設定保存）

<コンフィグデータ読み出し>

②「読み出し」をクリック



下記2 ファイルをダウンロードし保存

- ・ 本体設定データ “config.ini”
- ・ 音声設定データ “sound.pkg”

#### ■リストア（設定復旧）

<コンフィグデータ書き込み>

③ 本体設定データと音声設定データの  
それぞれで、「ファイルを選択」をクリックし、  
設定データファイルを選択

④「書き込み」をクリック

The screenshot displays the PATLITE web interface for a 'Network Signal Tower'. The top header shows the device name, MAC address (80:39:e5:02:61:b2), and firmware version (2.01). The left sidebar contains a menu with '管理' (Management) selected, and 'コンフィグ' (Config) highlighted with a red circle and the number 1. The main content area is divided into two sections: 'コンフィグデータ読み出し' (Config Data Load) and 'コンフィグデータ書き込み' (Config Data Save). In the 'Load' section, a '読み出し' (Load) button is circled in red with the number 2. In the 'Save' section, there are two rows: '本体設定データ' (Main Setting Data) and '音声設定データ' (Audio Setting Data). Each row has a 'ファイルを選択' (Select File) button circled in red with the number 3, and a '書き込み' (Save) button circled in red with the number 4. The status for both rows is '選択されていません' (Not selected).

### 3. IFコンバーターA (事務所側 NBM-D88)



## ■ インタフェースコンバータA (事務所側 NBM-D88)

手順 1

ログイン

本製品の工場出荷時のIPアドレスは「192.168.10.1」です。

IPアドレスの変更は、パソコン (以降、PCと表記) のWebブラウザからログインして設定を変更してください。  
ログインの方法は下記の「2.6.1 ログイン」を参照してください。

MEMO 推奨ブラウザは Internet Explorer 8 以降、Firefox 12 以降です。

### 2.6.1 ログイン

本製品の各種設定は、Webブラウザからログインしておこないます。  
ログインするためには、本製品に設定したIPアドレスをWebブラウザアドレス部分に入力します。



図 2.6.1-1 ログイン画面

- 注意
- ・ログイン画面が表示されたら、パスワード欄に「patlite」と入力後「ログイン」ボタンをクリックしてください。初期パスワードは「patlite」になります。不正操作防止のためパスワードは必ず変更してください。
  - ・ログイン状態で、無操作状態が10分以上経過した場合、自動的にログアウトされます。その際は、再度ログインをしてください。
  - ・画面が文字化けが発生し正常に表示されない場合は、文字コードをUnicode (UTF-8) に変更してください。
  - ・本製品には2重ログインできません。複数の場所から設定できないようにしています。

### ■ インタフェースコンバータA (事務所側 NBM-D88)



#### 手順 2 IPアドレス設定

ログイン後、Webセットアップツール画面に移動し、下記手順で「システム設定」画面を表示させてください。

- ① 設定画面左側の設定項目一覧の「セットアップ項目」をクリックします。
- ② ツリーメニューの「システム設定」をクリックします。

システム設定画面が表示されます。



- ③ 本体 IP アドレスを入力します。
- ④ お客様の必要に応じてネットマスク、デフォルトゲートウェイなどの設定をおこないます。
- ⑤ 「設定」ボタンをクリックして設定を反映します。
- ⑥ 設定を有効にするため「ネットワークの再起動」ボタンをクリックします。
- ⑦ ネットワークの再起動に約 20 秒かかります。待ち時間が経過しましたら「ログイン画面へ」をクリックします。



## 3-2 設定バックアップとリストア (2/2)

### ■ インタフェースコンバータA (事務所側 NBM-D88)



#### 手順

ブラウザで機器へログインし、

①「保守機能項目」>「コンフィグ設定」を選択

#### ■ バックアップ (設定保存)

<コンフィグデータ読み込み>

①「読み込み」をクリック



下記ファイルをダウンロードし保存

・ 本体設定データ “nbm.ini”

#### ■ リストア (設定復旧)

<コンフィグデータ書き込み>

②「参照」をクリックし、  
設定データファイルを選択

③「書き込み」をクリック



# 総合試験

各種動作および設定の確認を実施

5 総合試験 実施項目

分類	試験項目		確認内容	試験結果	
カメラ 単体	ナンバー 認識精度	車両の速度	<input type="checkbox"/> 想定される上限スピードでナンバーを認識できること。 (※ICTツールで測定して確認)	日中	
		車両の動線	<input type="checkbox"/> 想定される全ての動線（入出場コース）でナンバーを認識できること。 (※ICTツールで測定して確認、★確認した動線も記載しておく) <input type="checkbox"/> 入出場判定が自動の場合は、判定結果も正しいこと。	夜間	
				日中	
		連続通過	<input type="checkbox"/> 車両が連なって通過してもナンバーを認識できること。 (※ICTツールで測定して確認)	夜間	
				日中	
太陽光の影響	<input type="checkbox"/> スマホアプリ等での事前確認結果を記載し、 影響ある場合はその時間帯にテストを実施し結果も記載する。	朝日			
				西日	
映像監視 ソフト & パソコン	基本動作	疎通確認	<input type="checkbox"/> PCからカメラ、スイッチ、レコーダー、外部機器（外部IO、パトライト等）にPingコマンドを実行し、応答があること。	—	
		時計設定	<input type="checkbox"/> PC、カメラ、スイッチ、レコーダーの日時時刻が正しく、同期がとれていること。 (PCとスイッチはレコーダーに対してNTPで同期させる)	—	
		自動起動	<input type="checkbox"/> 電源ボタンを押してPCが起動し、一定時間後に監視制御ソフト（WV-ASM300）が自動起動すること。	—	
		定期レポート	<input type="checkbox"/> PCが所定のスケジュールで自動再起動し、監視ソフトASM300も起動すること。 (運用の影響のない時間帯で、毎日の実施を推奨) <input type="checkbox"/> 再起動時間は車両の通行がない、または少ない時間帯とすること。	—	
		画面表示	<input type="checkbox"/> 操作モニター、ナンバーキャッチモニターが正常に表示されること。 (ナンバーキャッチモニターが表示されていない場合、操作モニターのナンバーキャッチアイコンを押して正常に起動されること。)	—	
		カメラ登録状況	<input type="checkbox"/> 操作モニターに登録した各カメラのアイコンが正常に表示されること。	—	
		画角確認	<input type="checkbox"/> 登録した各カメラの画角が、ナンバー認識の設計どおりになっていること。	—	
		ライブ映像確認	<input type="checkbox"/> 各カメラのライブ映像が1画および多画面（4画、9画など）で正常に表示できること。 <input type="checkbox"/> 多画面時に動きにカクツキ（秒1コマ表示）のないこと。 (ASM300のライブ取得先が"カメラ"で"AUTO"になっていること)	—	
		再生映像確認	<input type="checkbox"/> 各カメラの再生映像が1画および4画で正常に表示できること。	—	

分類	試験項目		確認内容	試験結果	
映像監視 ソフト & パソコン	ナンバー 情報受信	認識結果表示	<input type="checkbox"/> 「認識情報」画面に各車両のナンバー情報、静止画像が表示されること。 <input type="checkbox"/> 以下の場合の動作が運用仕様どおりになっているかも確認。 (「履歴ルール設定」の内容も確認) ①同一ナンバーが連続した場合 ②ナンバーの一部項目が認識できなかった場合	—	
		履歴出力	<input type="checkbox"/> ナンバー情報の履歴が正しくファイル出力できること。 (CSVおよびHTMLの両方で確認。)	—	
	ナンバー 照合	登録ナンバーリスト 作成	<input type="checkbox"/> 登録ナンバーリストを作成し、ナンバー情報を登録できこと。 <input type="checkbox"/> ユーザー作成のCSVデータがある場合は、正しくインポートできるかも確認。	—	
		照合アラーム	照合動作仕様（ルール）ごとに所定のアラーム動作をすること。 <input type="checkbox"/> 画面表示（ポップアップ、「アラーム」画面） <input type="checkbox"/> 外部機器との連携動作 連携する他社納品機器が動作確認できない状況の場合は、 接点出力等の動作が相手側機器の要求仕様どおりか確認。	仕様1 仕様2 仕様3 ...	
	滞留検知	滞留アラーム	滞留動作仕様（ルール）ごとに所定のアラーム動作をすること。 <input type="checkbox"/> 画面表示（ポップアップ、「アラーム」画面） <input type="checkbox"/> 外部機器との連携動作 連携する他社納品機器が動作確認できない状況の場合は、 接点出力等の動作が相手側機器の要求仕様どおりか確認する。	仕様1 仕様2 仕様3 ...	
				仕様1 仕様2 仕様3 ...	
	保守機能	履歴保存期間	<input type="checkbox"/> 履歴の保存期間の設定が要求仕様どおりになっていること。 (「履歴ルール設定」の内容。初期値：60日。最大120日まで設定可能)	—	
		バックアップ	<input type="checkbox"/> ナンバー認識アプリのバックアップデータが自動で作成されていること。 <input type="checkbox"/> バックアップ先は「バックアップ設定」画面で設定したフォルダで、Cドライブとは別のドライブ（増設内蔵HDD）になっていること <input type="checkbox"/> 開始時間は車両の通行がない、または少ない時間帯になっていること。 <input type="checkbox"/> バックアップ動作の時間帯がPC自動レポート時間と被っていないこと。 → PCリブート & アプリ起動完了後の時間とする	—	

The background is a dark blue field filled with various geometric shapes in lighter shades of blue, including squares, rectangles, and semi-circles, some of which are partially overlapping. The shapes are scattered across the entire frame, creating a complex, abstract pattern. The bottom of the image features a white curved border.

# Panasonic CONNECT

版	日付	変更内容
1.0版	2025.9.30	・初版 発行